

平成29年度第1回（第40回）3市共同資源物処理施設整備地域連絡協議会会議録

○日 時 平成29年4月8日（土）午後6時30分～9時15分

○場 所 東大和市桜が丘市民センター 集会室

○委 員

（1）自治会・マンション管理組合等 以下のとおり（13名）

自治会・管理組合名	代表者	専任者
プラウド地区自治会	—	光橋由訓
栄一丁目自治会	—	町田雄治
栄二丁目自治会	—	—
栄三丁目自治会	—	—
末広二丁目親交会	—	—
新海道自治会	松田真	—
日神パレステージ東大和桜が丘管理組合	—	後藤隆康
グランステイツ玉川上水管理組合	—	—
クロスフォート玉川上水管理組合	高山雄二(代理)	山崎武
グランドメゾン玉川上水ウエストスクエア管理組合	坂本長生	—
グランドメゾン玉川上水センタースクエア管理組合	高木文枝(代理)	森口恵美子
グランドメゾン玉川上水イーストスクエア管理組合	—	小川昌平
グランドメゾン玉川上水ノーススクエア管理組合	邑上良一	中原禎子
グランスイート玉川上水管理組合	—	斉藤理憲

（2）3市・衛生組合 以下のとおり

区 分	出 席 者	
組 織 市	小 平 市	白倉資源循環課長
	東 大 和 市	中山ごみ対策課長
	武 蔵 村 山 市	古川ごみ対策課長
小平・村山・大和衛生組合	伊藤計画課長・片山事務局参事	

○事務局

小平・村山・大和衛生組合	管家計画課主査・里見計画課主査・小島計画課主任
--------------	-------------------------

○出席者

区 分	出 席 者	
組 織 市	小 平 市	—
	東 大 和 市	松本環境部長
	武 蔵 村 山 市	佐野協働推進部環境担当部長
小平・村山・大和衛生組合	村上事務局長	

〈会議内容〉

【邑上会長】

皆さん、こんばんは。時刻になりましたので、本日の連絡協議会を始めたいと思います。えー、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日はですね、私がまだ、そのまま会長ということで、ちょっと続いてますけれども、えー、よろしく願います。

えー、いつもと同じようにですね、えーと、まず配付資料についてですね、事務局のほうから、確認の、えー、話をさせていただきますので、えー、資料の確認をしていただきたいと思います。

【伊藤課長】

えー、改めまして、皆さん、こんばんは。えー、お忙しい中、集まりいただきまして、えー、ありがとうございます。えー、初めにまあ今、資料の確認というお話があったんですが、まずあの、年度の切りかえがござ、ございまして、えー、東大和市と、えー、武蔵村山市におきまして、人事異動のほうがございましたので、初めにご紹介をさせていただきたいと思います。

えー、東大和市環境部長ということで、えーと、松本部長です。

【松本部長】

すいません、あの、皆様にとって、決していい話ではないかもしれないんですが、すいません、あの、田口部長にかわりましてですね、4月から、あの、すいません、ごみ対策課長から、えー、環境部長になりました松本です。改めてよろしく願います。

【伊藤課長】

はい、えー、続きまして、えー、東大和市ごみ対策課長の中山課長です。

【中山課長】

はい、えー、中山と申します。えー、松本課長から引き続き、えー、引き継ぎまして、えー、就任いたしましたので、ひとつ皆さん、よろしく願います。

【伊藤課長】

えー、続きまして、武蔵村山市ごみ対策課長の古川課長です。

【古川課長】

はい、古川と申します。えー、よろしく願います。えー、前任の有山に引き続き、えー、こちらの、連絡会の、協議会のほうに参加させていただきますので、よろしく願います。

【伊藤課長】

はい、えー、まあ、なおですね、ちょっと今日はですね、えーと、小平の、えーと、岡村部長さんが、あの、所用で欠席してますので、よろしく願います。

えー、それではあの、資料の、配付資料のほうのですね、確認をさせていただきたいと思いま

す。今日、すいません、あの、ちょっと多くてですね、12点ほどございますので、えーと、ご確認のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。

えー、まずですね、一番初めは、まあ、A4の次第ですね。で、次第の、えーと、下の、配付資料ということで、こちらのほう、確認をしていただければと思ひます。

えー、1つ目としまして、えー、仮称3市共同資源物処理施設整備、えー、事業スケジュールということで、A4の、いつもの、表のものです。えー、続きまして、えー、ホチキスどめになっておりますが、えー、こちらあの、3月28日に、えー、施設見学会に行きました。こちらあの、岡田さんから上がっております報告書、冊子という形になっております。続きまして、えー、懸案事項確認表ということで、こちらA4の、えー、ホチキスどめなんです、こちら岡田さんから出されているもの。えー、続きまして、えー、仕様変更に伴う経費についてということで、A4の一枚のものです。大丈夫ですか。よろしいでしょうか。はい、えー、続きまして、えー、協議用、まあ、図面ということで、またホチキスどめ、冊子になってはいますが、図面のものです。はい、えー、続きまして、えー、ごみ量予測についての質問内容についてということで、これ、山崎さんからお出しいただいている資料。あ、で、すいません、こちらなんですけど、日付のほう、大変申しわけないです、えーと、3月11日という形で、えーと、右上ですね、なってるんですが、すいません、今日の日付、4月8日ということで、すいません、訂正をお願いいたしたいと思ひます。で、続きまして、えー、組成分析の傾向（組合データ資料）ということで、やはり、えー、こちら山崎さんからいただいている資料ですね。えー、同じく、山崎さんからの資料で、えー、小平市容器包装プラスチックの目標資源化量の根拠と組成分析のサンプル量。これ、A4の、えーと、おもて裏。ですね。

はい、で、続きまして、えーと、ホチキスどめになっております、えー、まあ資料1という形で、ごみ、えー、ごみ処理の実績資料ということで、これはあの、えーと、再配付、えー、させていただきますが、こちらの、えーと、ホチキスどめの冊子のもの。えー、続きまして、またホチキスどめなんです、えー、3市の廃棄物、えー、排出量の実績と予測。こちら再配付の資料。はい、えー、で、ホチキスどめ、まあ、えー、左上の1つとめなんです、えー、まあ、3市のごみ排出量予測という形で、タイトルとしてはなっているものです。棒グラフになっているものです。

あと、最後になります、えーと、一般廃棄物処理基本計画、平成26年3月策定における容器包装プラスチック移行計画目標。これも再配付の資料ですが、A4の一枚。

すいません、ちょっと今日、資料多くて、大変恐縮なんです、えーと、12点ばかりですね、えーと、資料ということで、えーと、お配りをさせていただきますので、大丈夫ですかね。

**【山崎専任者】**

すいません、クロスフォートの山崎ですけど。あの、配付資料の中に、あの、3月11日に、あの、私が出した、入ってません。あの、要求確認事項リスト。というものが、3月11日に配られたんですけども、今回は配られてない。

**【伊藤課長】**

あ、そうですね。ちょっとそちらのほうは、今回は、あの、配っておりません。で、えーと、前回はそうだったんですが、えーと、まあ質問内容という形で、こちらのほうで、えーと、まあ、質疑等を始めていたので、ちょっとこちらで、我々のほう、回答のほうを用意してきましたので、こちらで今日、やりたい。

**【山崎専任者】**

あの、この、3月11日の、確認要求事項リストを見るとわかるんですけども、あの、ごみ量予測の、についての質問内容と、あの、違う、違うというか、ここに書いてないようなことが、その、リストのほうには書いてあるんですね。よく見ると。私もう、これしか、やらないのかと思って、これだけ見てたら、あの、修正とか何かって話、されたじゃないですか。で、それは、こっちにしか書いてないんですよ。要求、確認要求事項リスト。で、えー、答えも、こちらには書いてあるんですけども、あ、書いてないんですけども、こっちには、こう、答えが書いてあるものがある。ということは、両方出さないと、だめですよ。だから、両方、お互いにこう、見ていかないと、その、回答の内容がよくわかんないんですよ。こっちには書いてないけどもこっちには書いてある。

いいですか。これは配ってもらえるんですか。

**【片山参事】**

えーと、今回、あの、お配りした、あの、2つ同時並行的にあの、調整してましたよね。あの、意見交換をさせていただいて、まあやりとりさせていただいたんですけど、今回、この、1点に絞らせていただいて、それを含めて修正版を、次回以降に出していきたいというふうに考えているんですけど。あの、2つ並行しますと、ちょっと、頭が混乱しますので、1つのところで結論をつけて、それを生かして、足りない部分はまた次回、議論させていただけたらと思っています。

**【山崎専任者】**

じゃ、3月11日に配ったこれはなしということですね。

**【片山参事】**

とりあえず、とりあえず今回のをまとめてさせていただいて、よろしければそれを反映して、足りない部分は次回お願いできたらというのが、私の。

【山崎専任者】

わかりました。じゃあ3月11日のこの要求リストは、とりあえず組合のホームページには載るといっていいですね。3月11日、3月に配った資料として。

【伊藤課長】

あ、それはもう、11、ええ、3月に配ってますので、載ります。

【山崎専任者】

で、改めて、また修正があれば、まあ4月の、資料として、また載るといっていいですか。

【伊藤課長】

そうですね。また直したものを配れば、そこでまた、その時点での資料という形で、ホームページには掲載します。

【山崎専任者】

わかりました。はい。ありがとうございます。

【伊藤課長】

はい、えーと、すいません、えーと、今、資料の確認をさせていただいたところでございます。えー、まあ、本日のですね、まあ内容につきましては、まあこの資料に基づいて、えーと、進めさせていただきたいと思います。まずまあ、前半部分ですね、まあ、我々のほうから、えー、示させていただいてます、まあ、5までの資料ですかね、えー、まあそちらのほうを、えー、また、やらせていただきまして、で、まあその後ですね、山崎さんからいただいている、まあ、今もお話ありましたが、えー、質問についての、えーとまあ、協議という形で、進めさせていただければと思っております。よろしく申し上げます。

えー、またですね、えー、前回、えー、3月11日の、会議録のほうを、えー、配付しておりますが、こちら、訂正等ございましたら、えー、後ほど、事務局のほうまでお願いしたいと思います。

えー、本日もですね、各市の担当部長のほうで、えー、出席をしていますので、よろしく申し上げます。

えー、なおですね、えーと、まあ、毎回の、板書のほうをお願いしております、岡田さんが本日欠席で、まあ、ピンチヒッターというか代理という形で、まあ、光橋さんのほうに、お願いをしておりますので、すいません、光橋さんのほう、よろしくお願いたします。

はい、えー、それではですね、進行のほうを会長のほうにお渡ししたいと思います。

【邑上会長】

はい、ありがとうございます。今先ほどですね、えーと、事務局のほうからは、まず1番から

5番までの資料を使って進めていきたいというお話があったんですけども、始まる前にちょっとこちらでお話ししてたんですが、えーと、ごみ量予測についての話が、このまあ6番になって、またこれが進まないんじゃないかなと思ひまして、えー、これを先にやったほうがいいかなと思うんですが、えー、その、まあ、先にやらなきゃいけないものをして、後に回せるものは、後にしたほうがいいかなと。

例えば2番の報告は、今じゃなくても多分いいのかなと、個人的には思ってるんですけども、えー、あとは3番は、まあ今回、内容は変わってないというお話だったので、3番もいいかなと。何か4番は宿題だということなので、先にやったほうがいいかなと思ひています。で、5番は、多分、5番にやるとまた今日時間かかるのかなと思うので、できればそのスケジュールの話と、えーと、4番の宿題ですね、まあ話が終わったら6番に、先に行ったほうがいいかなと思ひ思うんですが。

えー、ちょっと私、前回ですね、ちょっと参加できなくて、ちょっとすいません、インフルエンザでお休みだったんですけども、えーと、前回の内容を皆さんご存じだと思いますので、今の、まあ提案というか、その、どうかと。私が今思ひしたことです。皆さんどう、どうかと思ひ思うんですが。どうでしょう。

**【森口選任者】**

いいと思ひます。

**【山崎専任者】**

ずっとごみ量予測が進んでいないんで。クロスフォートの山崎です。ぜひあの、ごみ量予測については、あの、ずっともう何カ月も、中途半端で終わってるっていうか、ほとんど進んでない状態なんで、えー、ぜひ、お願ひしたいなと思ひます。

**【邑上会長】**

あとはいいですかね。はい。ではまずスケジュールのほう。スケジュールでまた、盛り上がりちゃだめなんですけども、まあスケジュールのほう、まず、えーと、基本的にはいいですかね、変更がある部分を説明していただくような形、で、あとはその、なんか、伝えなきゃいけないことがあれば伝えていただくということかなと思ひますので、まあ変化がある部分ですね、あとまあ、進捗があったりする部分とか、そういうところを中心にですね、まず説明いただければと思ひます。じゃあお願ひします。

**【伊藤課長】**

はい、えー、それではですね、えーと、まあスケジュールですね。まあ、こちらの、A4横のもので、えーと、示させていただきます。えー、こちらのほう、えー、まあ前回と、えー、

日程的なものはほぼ変わっておりません。えー、まあ前回の協議会から、今日までですね、まあ行われたというところが、えーと、都市計画決定の関係、6番の、えーと、ラインですね、の、えー、話をさせていただければと思っております。

えー、まあ懇談会って書いてありますが、こちらの東大和市、えー、まちづくり条例の規定に基づく懇談会という形で、えー、3月24日と25日、えー、に行われました。こちらのほうはですね、えーと、市民の方対象ということで、えーと、73名の方、が、まあ参加をされてというような形で、えーと、行われました。で、こちらのほうの、今あの、えーと、まあ会議等の内容のですね、取りまとめのほうを、今あの、都市計画課のほうを中心にですね、進めているということでございますので、えー、まあこちらのほうは、行われたということを申し上げておきます。

その次にですね、えー、3月30日に、えーと、都市計画審議会が行われました。えー、こちらにつきましては、えー、1月の30日に、えーとやはり都市計画審議会があったんですが、まあそちらの場ですね、えー、まあ資料要求という形で、委員さんのほうから、えー、まあ、出されたものがございまして、そちらに対して、えー、こちら、えー、資料の提供と、えー、ご説明のほうをさせていただいているというところなんです。

まあ、内容といたしましては、えー、まあ、平成25年のですね、1月8日の、えーと、まあ3市共同資源化事業に関する基本事項の確認書、ですね。その後に、えーと平成25年の7月なんですが、えー、3市共同資源化事業の今後について、まあ報告書、こちらのほうと、あとは、えー、同じく25年の11月29日に交わっております、えー、3市共同資源化事業に関する確認書ということで、こちらのほうが、えー、まあ資料要求があったということで、こちらを、えーと、ご用意してご説明をしております。

またですね、えーと、まあこちらのほうの協議会の、まあ内容がわかるように、審議会、審議委員さんのほうにですね、えー、お示ししてほしいということで、まあ、表をつくってですね、このような、まあ、ご意見も出ていると。我々の対応としてはこういうふうになっているというようなものを、えーと、資料提供させていただいております。

えー、あとはまあ、最後にですね、えー、まあ平成29年度以降の、まあ資源物処理についてと、まあ東大和市のですね、まあ流れということで、こちらのほうの、まあ説明を行ったのが、3月30日の都市計画審議会でございます。

えー、スケジュール的なところでは、えー、以上です。

あとすいません、あの、まあ先ほど、会長からもありました、2番を飛ばそうというお話だったんですが、まあこちらには載っていないんですが、えーと、3月28日に、えーと、施設見学会、

この協議会としてですね、施設見学会のほうを行なっております。

まああの、場所につきましては、川崎市の王禅寺処理施設センターと、えー、町田市のリレーセンターみなみのほうを、えーと、見てきております。えー、地域委員の、まあ専任者等の方々は、まあ4名の方が、まあ参加されたと。で、我々行政側の職員が、まあ8名ということで、総勢12名で、まあこちらの、両施設をですね、まあ見てきたということでございます。

スケジュールに関しては以上です。

**【邑上会長】**

はい、ありがとうございます。

今のスケジュールの説明に関してですね、まあ関係ない話じゃなく、このスケジュールに関してですね、何かご意見、質問等があれば、お願いします。

**【森口専任者】**

森口です。えーと、懇談会の、まとめが、5月に、えーと、また審議会でされるということですが、その日程は決まりましたでしょうか。

**【伊藤課長】**

5月に審議会が行われる。都市計画審議会の話。

**【森口専任者】**

はい、そうです。

**【伊藤課長】**

あ、まだ、我々のほうは、日程は伺っておりません。

**【邑上会長】**

ちょっと私から質問、邑上ですけど質問なんですけど、その都市計画審議会っていうのは、東大和市ですよ。で、その中で、この連絡協議会の、まあ様子、まあどういう様子かわからないのですが、何かお伝えしたということなんですけれども、それはどういうことが伝えられて、その、審議会のメンバーが聞きたいと言っていることが何かあるのか、えー、それとも今、えー、連絡協議会はこういう状況ですってただ説明するだけだったのか。どういう、内容というか状況だったんですかね。

**【伊藤課長】**

はい、えー、まあ、ちょっとですね、えーと、協議会の様子をとということで、えーと、委員さんのほうから、まあお一方ですね、あの、まあ、審議委員さんのほうにとということがございましたので、こちらのまあ、表のほうにさせていただいた資料を、えー、まあ、配らせていただいたということです。まあ、あの、あまりこう、細かくですね、あの、まあお時間等の関係もあるの



で、あの、まあこういう状況だ、ああいう状況だ、という話は、実際はまあ、してないんですが、まあその、えーと、まあ提供した資料に基づいて、えー、まあ、目を通してくださいというようなところで、えーと、進めさせていただいたところです。

#### 【邑上会長】

その委員さんが具体的にどんなことを聞きたかったのかというのはあるんですか。その、会がいつからいつまで、何回ぐらいやっているというぐらいのことを聞きたい。だったらまあ、確かに、表みたいな形で表現でいいと思うんですけど、この、場の、この雰囲気みたいなことであると、なかなか、難しい。まあ、どの辺を、その方は聞きたくて、どんなことを答えられているんですか。

いや、何かというと、ちょっと、その、時間がとれて、そういう連絡協議会自体の実態、状況とかを把握したいということであれば、もしかしたらその、委員が、実際その場に行ってお話しするほうがいいのかななんて思ったりはしたんですけど。どういう質問で、どういう状況だったかわからないので、全然それにそぐわないかもしれないので、もしそういう、委員の話を聞きたいとかいうことであれば、まあ都合がつく方がいるかどうかかわかんないんですけど、まあそういうお話ができたらいいのかなと思いましたので、ちょっとそういう質問になりました。だから全然、聞いていることがそういうことなのか、ただ、会ってどんな人数で、どんな回数で、どういうことをやってるの、ぐらいだったら、全く委員の人が行く必要はないんですけど。どんな感じだったのか、ちょっと知りたかったんです。

その、審議会で、何か聞きたいから要求があって、こう答えているんですよ。その、聞きたい内容がどんなことだったのかな。それが会の規模、ここの連絡協議会の規模だったり、会合をどれぐらい重ねているとかいうことだったら、ただのデータでしかないもので、それは別に「はい」って出すだけでいいと思うんですけど、どんなことが議論されているんですかとか、雰囲気はどうですかとかだと、文字だとやっぱり伝わりにくいかなと思いましたので、そしたら、もしかしたらここの連絡協議会のメンバーが誰か代表で行って、その審議会のメンバーとのお話みたいなことをしたほうがいいのかなと思ったので、そういう内容だったのかどうかというのをただ聞きたいだけです。そうじゃないなら全然違いますという回答でいいんですけど。

#### 【松本部長】

あ、えーとですね、えー、すいません。えー、都市計画審議会の委員さん1名からですね、えー、まあこちらの協議会を設置していますという中で、あの、まあ、この協議会の中で反対の、えー、声があるという、こういう、えー、意見をいただいています。で、その状況をわかるように、えー、都市計画審議会の他の委員さんも、まあ、情報が共有できるようにしたほうがよろし

いでしようというご意見があったところです。

それで、えー、出した資料につきましては、えー、現在、今日配付はされていないんですが、あの、まあ、どういったところで、その、施設建設反対であるのかというところをですね、えー、記したようなペーパー、こちらを、えー、配付したところです。

で、あの、都市計画審議会の、まあ委員さんからも、えー、意見はあったんですけども、えー、毎月、この協議会、基本第2土曜日にやっていますということも、まあ委員さんのほうからですね、他の委員にお話をされております。したがって、えー、時間があれば、まあ、ぜひ傍聴していただければというような話が、まあその場でもあったとともにですね、あとは、えー、ホームページ上で、えー、会議録も掲載されていますよということで、まあそちらのほうを、まあ、えー、見ていただいて、状況を知ることできるようなところであるということで、えー、お話のほうはさせていただいております。

以上です。

**【邑上会長】**

はい、わかりました。ありがとうございます。

あとはいいですか。はい。

**【森口専任者】**

今、森口です。行政側から、えーと、委員会、都市計画委員会の、えーと、資料についての説明がありましたけれど、あの、協議会のことに関しては、本当に表で、何回やったという実績だけ言っているようで、あの、反対している人がどういうことで反対しているとかっていうことの説明はありませんでしたので、あの、配られた資料なんかも、本当に立て板に水で読み流しているだけで、協議会も本当に何回やりました、このときにはこういうことをしましたというだけで、そのときにどんな意見が出たかということの説明もされていない状況なのです。なので、もし、あの、会長のおっしゃるように、委員さんのほうから、私たち協議会のほうに、あの、意見を言いたいとか、あ、意見を聞きたいとかいうことであれば、私たちから誰か行ったほうが良いと思いますし、あの、行政側の説明の、えーと、渡した資料というのは、あの、皆さんにもぜひ配付してほしいと思うし、協議会ではとても、このような資料では数字的にも納得がいかないようなものばかり掲載されておりましたので、あの、傍聴した、して資料を得た者として、あの、反論したいと思います。

ほかに傍聴された方、いらっしゃいますか。

**【邑上会長】**

はい、ありがとうございます。

えーと、まあその、審議会のほうから聞きたいという話がないのにいきますという、だとしたらちょっと、あれなので、あの、そうじゃなければ別に行く必要はないんですけど、あの、うまく伝わっているかどうかというのはちょっと気になったので、その質問と、回答の内容がうまく合っていないと、あの、その、質問した方も、なんかいまいちかなと思ってたんじゃないかなと思ったので、どういう状況だったかって聞きたかったんで、私はそういう質問をしましたが、まあちょっとその、感じ方に、まあ、違いがあることがわかりました。

あの、まあ、今日はこの部分をいっぱい話す必要はないので、まあ、特にこのスケジュールに対して質問がなければ、次に進んでしまおうと思いますけれども。はい。

**【坂本代表者】**

えーと、この前の、都市計画審議会に、えー、提出された資料はどういうものかというのはわかってないんですけども、あの、あくまでも、えー、見積設計ですね、設計図書を、あの、まあ、提示されたんであれば、その、28年度中にもう、かなりスペックの面で問題がありましたよね。で、まだ、フィックスしたわけではないわけですよ。フィックスしてないのに、それが堂々と、その、まかり通っていること自体は、非常におかしいですよ。で、その、見積も、まあ、なんていうか、あの、業者任せというところがありますよね。で、私もあの、政府調達とかやってたんで、どれだけ真剣に、あの、深いところまで掘り下げて準備しないといけないかという事は、非常に大事なことですよ。自治体であっても、やはりそういう面を中途半端に、まだフィックスしてないのに、それを堂々と都市計画審議会に出されること自体は、非常に、あの、違和感を感じます。

で、今、会長がおっしゃったのは、非常に大事なことでですね、やはり、都市計画審議会で、行政側だけの話を聞いてたら、「あ、そうか」って思うかもしれないけれども、じゃあこれだけ、まあ40回もやってて、それで皆さん、合意も同意もしてないということであれば、これはおかしいんじゃないのって、通常思いますよね。それで、まあ、あの、今、国会でもよく問題になってるんですけども、あの、百条委員会じゃないですけども、そうでなくてもですね、例えば、都市計画審議会のほうから、あの、参考意見として、えー、参考人として、あの、この協議会の中から、まあ代表なり、二、三人を列席していただいて、じゃあ、協議会でどのように審議されているんですかという、生の声が聞けると思うんですよ。

でね、あの、私が一番心配してるのは、つくらなくていいものを、税金を投入して、二十数億も投入して、何でつくるんだと。で、つくった途端に、不要だっていう話になった場合に、どう責任をとるつもりですかね。そこが一番大事なんですよ。

まあ要するにですね、あの、今までいろいろ、その、何ですか、山崎さんが、あの、提示され

た、その、排出量とかありますけれども、今、立川が、焼却炉の建設について、スペックをどんどんまとめてますけれども、立川が言ってることは、要するに、あの、何ですか、ごみの有料化を始めて、そのデータが出て初めて予測がつくんですというようなことを言っていましたね。と、ほかの自治体でも、先行してやってるところは、みんなそういうことを言ってますよ。有料化してないとデータは出せません。数値的な、その、要するに、あの、何ですか、あの、分析、とかやっても、あくまでも素人が分析する話ですから、そもそも間違ってるんじゃないかなと思います。

それとね、容リ協会のほうで、今までは、あの、何ですか、あの、容器包装プラスチックを出したら、それに対して補助金みたいなを出してたんですけども、この10年あたりに、もう、当初の、その、例えば、あの、補助金が、もう、当初の10年前の1割ぐらいしかなくなってないんですよ。だから幾らね、あの、あの、リサイクルしようと思っても、一銭にもならないのに、何十億もかけるのかというのは問題、大問題だと思うんですよ。

だからそう、そういう面をね、今おっしゃった、その、都市計画審議会でも、あの、基本的には小平市は、都市計画に、工業地域というのはないですからね。準工業地域なんですよ。今、あの、リサイクルセンターがあるところも準工業地域ですよ。工業地域というのは、もう、あの、あそこに、何とか、あの、工業というのがあって、専務と話してたんですけども、こういうところでは、もう工場はやっていけません。だから、あの、東大和市にも、買ってくれないかという話があったらしいんですけども、あの、うちはとても買えませんということで、あ、1万平米以上ありますけれども、それで、地代は払わないといけないから、パチンコ店に、あの、借地権で設定して、貸してるわけですよ。何百万という。月に何百万ですよ。

だから、そういう状況の中で、できませんというのを何で工業地域にしてること自体が、私は常識的に考えたらおかしいなと。だから、都計審さんのほうで、工業地域というのは、これはもうあり得ないということで、しっかりと判定していただいて、例えば住宅地とか、あの、まあ準工業地域もないでしょうね。あくまでも、リサイクルセンターをつくるための工業地域にしているのかなと勘繰りたくなるんですよ。そのために、まだ工業地域として残してるの、残してるのかな。もう今、どんどんどん、工業地域はなくなってるんですよ。で、その、あの、もとの工場も、拠点はもう東南アジアに移してるわけですから。本社は栃木かどっかですよ。だから、こういうところに、ああいうリサイクルセンターをつくるというのは常識的に考えたら、全国どこにもなかったじゃないですか。昔から、あるところに住宅地が建つんだったら、それは話はわかるんですけども、あの、そうじゃないですからね。もうどんどんどん時代は変わってるわけですから。

以上です。あの、非常に、会長のおっしゃったことは、大事なことだと思います。ですから、今からでも、都計審さんから、あの、要請があれば、この代表のうちの二、三人は、出席して意見を述べさせてほしいなどは思います。

以上です。

**【伊藤課長】**

はい、まあ、今の話は、あの、まあ都市計画審議会の話ですので、ちょっと我々のほうでね、どうするということはお答えできませんので、すいませんが、よろしくをお願いします。

で、あと、まあ今、まあ住宅地でなんて話があったんですけど、まあまさに、まあ今日はちょっとね、触れられませんが、町田市のリレーセンターみなさんなんか、マンションの真下だったという、まあ行って見てですね、すごくまあ、あの、まあ、驚いたなというところも、実際はございました。またそれはあの、後日、まあ報告ということで上がってくると思いますので、またそのときでよろしいかなと思います。

**【邑上会長】**

今日、あの、岡田さんがお休みなので、まあ岡田さんに実際これは報告していただいたほうがいいかとは思っています。ので、まあ、この報告についてはやっぱり次回ということにしたいと思えます。

まあ、今、話がありましたように、その都市計画審議会のほうから、まあ、委員に出てくれない、ないんだろうとは思んですけど、まあ、もしあれば、そういう話を、まあ伝えていただければとは思っています。

じゃあ、えーと、スケジュールに関しては、えー、ここで終わりにしてですね、えーと、4番の、仕様変更に伴う経費についてというところですね。この内容が宿題ということですよ。

はい、じゃあこちらのほうですね、えー、事務局でいいですか、ので、回答していただこうと思えますので、4番の資料を、えー、ごらんください。

**【伊藤課長】**

すいません、えーと、まあ4番の資料ということで、えーと、仕様変更に伴う経費についてという、A4の、えー、資料です。ちょっとまあ、この、えー、宿題という形で求められたのが、えーと、前回、岡田さんだったと思うのですが、まあ岡田さん、今日いらっしゃらないのが、ちょっとまあ、説明的に残念だなというところはあるんですが、一応求められましたので、えー、こちらのほうの、説明をしたいと思えます。

えー、何を求められたかということで、まあ今日、実際図面を示していろいろと、まあ協議等を進めていきかけたところもあるんですが、まずはまあ、あの、まあ前回は前々回も出てる

と思うんですが、えーと、計量機の問題ですね。計量機。えーと、まあ当初、1台の提案があったところを、じゃあそれを追加、もう1台、2台にするということで、その辺の追加費用はどうなるんだというお話がございました。

またですね、えーと、今回請け負いました、まあ、メタウォーターさんからまあ出てきた、まあクレーンの関係ですね、搭乗式で提案があったということで、これを、搭乗式を、まあ、やめた場合、まあどうなるんだというところでの、えーと、数字を示しているのが、えーと、この資料の1番の経費比較表という形になります。

えー、こちらなんですが、まあ(1)ということで、えー、収集車出口用計量機の追加費用、トラックスケールですね、こちらのほうを、まあ1台追加するという形になりますと、えー、まあ、1,950万円、まあプラスに振るといようなお話をいただいています。

えー、2番目がですね、今申し上げました、えーまあクレーンの、えー、クレーン操作室の設置ということで、こちらあの、設置をした場合が①ということで、その場合はプラスに、えーと940万円、まあ②ということで、搭乗式をやめた場合、それに伴ってやめたときに、えーと、まあマイナスの430万円、まあ都合ですね、510万円、まあプラスになってくるとい形で、まあこれらを含めると、えーまあ、計算しますと、まあ2,460万円ほど、まあ経費としては、えーとプラスにかかるというようなところでございます。

で、先にまあちょっと、3番のほうに、えーと、触れるんですが、えー、まあ経費の相殺という形で、こちら、えーとまあ、本工事契約につきましては、まあ何度も出ておりますが、まあ性能発注方式という形でございます。で、まあ、したがいまして、こちらの、えーと増額分、2,460万円につきましては、まあ、仕様、仕様内容、まあ要求水準ですね、こちらの、内容の変更を伴わない範囲で、まあ、請負業者と協議をして、まあ、企業努力というんですかね、まあこちらの範囲内で、まあ詳細調整をしていくという形で、えーと、協議を進めていくということになります。

まあしたがいまして、えー、契約の金額の変更ということは、特に、えーと、行わないという形になります。

えー、ちなみにですね、まあこの辺の経費のまあプラス分ということで、じゃあ実際の、入札の状況、状態がどうだったのかというところが、えーとありましたので、こちらを、2という形で、えー、入札参加者及び入札金額という形で、えーと、まあ表に、まあしてございます。まあ、結果としては一番上ですね、メタウォーターさん、メタウォーター株式会社がですね、えー、まあ、入札をしたということで、えー、落札か、ということで、えー、まあ金額としましては税抜きで23億5,480万円、税込みにしますと、えー、25億4,318万4,000円、ちよっ

と細かいですけど、そのような数字になります。で、それぞれですね、えーと、参加したのが合計3社でしたので、ほか2社、極東開発工業、えー、株式会社につきましては、えー、まあ税抜きでの入札金額が23億9,000万円だったと。えー、新明和工業株式会社につきましては、えー、税抜、まあ入札金額が27億8,000万円であったということの、えーと、結果のほうを、こちら資料として、示させていただきました。

以上です。

**【邑上会長】**

はい、ありがとうございました。

えー、この、仕様変更に伴う経費についてですね、内容について、えー、まあご意見等、ある方いらっしゃいますか。

**【森口専任者】**

森口です。性能発注方式なので、変更があっても、請負金額で努力していただけるということですね。変わらないと。いう回答を今いただいたのですが、えーと、2,460万円分多くなるものを、等価交換として、何かほかの機能を削除されていたり、減らされていたりということがあるのではないかと思います、そのあたりを教えてください。

**【片山参事】**

えーとですね、まあ仕様書で要求水準を示しておりますけども、この要求水準を示した中で、業者側が提案していただいている図書があります。その中で、えーと、プラザ機能の部分についてですね、要求水準よりも大き目の、大き目っていいですかハイスペックのですね、あの、提案がありましたので、その部分で相殺するように、あの、業者側と協議したところでございます。具体的にはですね、あの、220平米の自由スペースと、えー、200平米の会議室、200平米程度の会議室というのを要求してたんですが、えー、それはあの、ともに兼ねることができるという要求水準でいたんですが、業者さんはですね、それを別々に確保していたということがございまして、その部分で調整をして相殺することで、ぜひ進めたいというふうに協議がととのっている状況です。

**【森口専任者】**

環境面のことが削られたのではなく、会議室を兼用するということで削ったということですね。はい。

**【山崎専任者】**

いいですか。

【邑上会長】

あ、はい。どうぞ。

【山崎専任者】

クロスフォートの山崎です。あの、えー、何でしたっけ。計量機を、まあ、屋内に1台つけて、2台計量機設置という形になりましたけども、これに伴って、その、建物の面積っていうんですかね、そこら辺っていうのは変わらないんですか。基本的には一緒。なんか、この配置図を見ると、あの、もらう資料によってもみんな違うんですよね。その、入り口の位置だとか。ですから、比較ができないんですよ、なかなかその、面積じゃなく、何か書いてないと。だから、まあ、単純に変わってないのか、変わっているのかだけ教えてください。

【片山参事】

はい。あの、図面といいますよりも、あの、何ていいますか、絵として見ていただきたいんですね。あの、皆様から、あの、まあ要求があったということについて、どうやってかなえていくかということと、それから今後協議しなければいけない排気の場所ですね、そのための図面を、ちょっと図面の話にいちやいますけども、えー、お示ししています。で、これからあの、まちづくり懇談会もございますので、一般市民の方のご意見もございますので、現段階では決まっています。決まってない中で、あの、皆様の要求事項をどのように反映させたかを説明するための、まあ絵として、図面として、あの、提出していますので、あの、固まるのはですね、確認申請出すまでには固めますけれども、今の段階では絵として、あの、理解していただきたいなと思っています。

【山崎専任者】

わかりました。そうすると、この、トラックのこう、動く、あれも変わってきちゃう可能性があるわけですね。

【片山参事】

あの、基本的には、あの、今お示した機能面については変わりませんが、えー、建物が、多少は変わってくる可能性はあるという。そういう程度ですね。

【山崎専任者】

わかりました。ありがとうございます。

【邑上会長】

はい。ほかにないですか。はい、お願いします。

【坂本代表者】

あの、この入札金額ってありますけれども、具体的に聞きますけれども、予定価格というのは



幾らだったんでしょうか、最初から。予定価格はなかったんですか。

【伊藤課長】

あの、まあ、補正をしての、まあ予算額と同額という形です。

【坂本代表者】

ということは、その、予算額も、あの、まあ入札予定価格100%ということを見ていいわけですね。よく、問題になってるじゃないですか。あの、予定価格の、99.9%で、ここ談合じゃないかとかいうのを、あの聞かれてるんですけど、まさに、これは業者の言いなりのままじゃないですか。そうでしょう。

【伊藤課長】

まあ、言いなりというか、まあ、業者が示してきた、まあ、この、入札の状況ということですよ。金額で、この札を入れたという形です。

【坂本代表者】

この前も、あの、問題になってましたけれども、あの、諸経費は何ですかって、あー、ということがあって、わからなかったんで、私がそれはもう、あの、企業のもうけですよということを言っただけですけども、その、諸経費が30%ですけども、まあ基本的に入札すれば諸経費30%は高いなどは、実際思ってたわけですよ。だからこの、二千、二千あの、2,400万ぐらいだったら、幾らでもその中で泳げるわけなんですよ。だから、そういう予定価格がしっかりしてないから、こういう金額が出てくるんじゃないかなと。

もっと怖いのは、いろんな面で、その、要するに臭気とか、あの、建物内部を負圧にして、排気のほうで、あの、フィルターをかけてやるということがあるんですけども、実際的に、その、換気、あの、換気システムとかを見て、フィルターがどういうものかとかいうのを、綿密に言えば、非常に、まずい、あの、スペックになるんじゃないかなと思うんですね。例えば、あの、住宅地で言えば、10畳の、10畳の部屋に、4畳半の、エアコンをつけるような状態になるんじゃないかなと。まあ、あの、まあ素人ながら、心配してるんですけども、基本的にはやっぱり、こういう面ではですね、あの、税金使うわけですから、二十数億もですね、おかしいんじゃないかなと実際に思いますよね。

こんなの、もうほんと、オリンピックが終わるまで、待ったらどうですか。今慌てずに、やらずに、実際に、もっと真剣に考えて、待つというのも非常に大事じゃないですかね。何でこう、急がないといけないのかって、今ちゃんとやれてるのに、こんな予算をつくって、実際どうなるかわからないですよ。ましてや、焼却施設だって、まだ、はっきり姿が見えないのに、こんな、絵を、絵で見てほしいとか、絵で見てほしいって言ったってこの、あの、あの、パースじゃない

ですけれども、まあ、こういう型ってできてるわけじゃないですか。これ、もう設計図書の一部ですよ。考えてみれば。配置図とおんなじじゃないですか。

で、緑地条例でも、これなんか、私、一回、図面で計算してみたんですけども、30%ぎりぎりですよ。20センチ間違っても30%切ってしまうというような形なんですけども、果たしてこれを、もう一回見たらどうなるのかな。で、あの、屋上に庭園を、あの、何ですか、あの、緑地帯を設けるとかいうお話もあったんですけども、実際にどうなるか全く姿が見えないですよ。だから、そういうのを考えれば、本当にね、オリンピックが終わるまで、じっくり待たたほうがいいんじゃないでしょうか。で、あの、焼却炉のほうは当然考えないといけないと思いますよ。でも、こんなのつくったってつくらなくたって、別に何とも、何にも変わらないじゃないですか。

以上です。

#### 【片山参事】

あの、毎度同じ話になって恐縮なんですけども、ごみ焼却施設についてはですね、平成33年、平成10年ごろにですね、更新の話があって、えー、それがまあ、ちょっと更新を断念しようということで、部分更新という形で、基幹的施設改造ということで、大改造をしましてですね、平成33年まで使えるように改造して、で、その方針のもとに運営しているんです。で、現状でもですね、この、3、3市共同施設、それから不燃・粗大ごみ処理施設、ごみ焼却施設、これ今セットで動いてますけれども、えー、計画どおりに進めたとしてもですね、平成36年までは使わざるを得ない。3年延伸しなくちゃいけないという状況で動いていますので、焼却施設の、まあ、これ以上の延伸は、私どもとしては、えー、考えたくないということでございます。

それからあの、もう1つ、スペックが心配だという、6畳に4畳半用のエアコンがつくんじゃないかと。

#### 【坂本代表者】

10畳です。

#### 【片山参事】

あ、10畳に、えー、4畳半用の、まあ、エアコンがつくんじゃないかというようなお話ですけども、それは絶対にならないように、施設のもともとのその処理する機能とですね、皆様方にご説明してきた、あの、環境対策、これについては一切削っておりませんし、最高水準のものと自負しています。

それからもう1つ申し上げたいんですけども、資源物処理施設、それから不燃・粗大ごみ処理施設、焼却施設はもうセットになってございまして、それぞれ、資源化を行う施設についても老朽化等の課題がございまして、えー、粗大ごみ処理施設についても焼却施設についてもそのよ

うな課題がございます。これをセットで取りかえていこうということで、3市で合意したのが3市共同資源化事業であって、この事業に伴ってですね、小平市さんでは3,700平米程度の土地の提供をお願いしています。地続きではありますけれどもですね、やっぱり更新するためには用地が少ないものですから、それだけの支援をお願いして、えー、計画的に進めていく。大和さんには、皆様方には、あの、ご心配をおかけしておりますけれども、桜が丘の用地を借用して資源物処理施設をと。こんな形で進めておりますので、1つが動いてしまうと、焼却炉まで影響してしまうということがございますので、その点は承知しておいていただきたいなと思います。ご理解というのはなかなか難しいと思うので、承知はお願いしたいなと。

**【森口専任者】**

えーと、森口です。今、坂本さんの話からまた、あの、一方的な、あの、焼却炉とかに伴い、えー、3施設一緒に更新しなければいけないということで、片山さんから一方的な話がありましたが、その件については、あの、ここで皆さん、納得されていないことで、いろいろ話し合わなきゃいけないことがあるのにも、あの、また一方的な話になったので、話し合わなきゃ、なければいけないことがそのままになっているので、あの、そういう説明を一方的にしないでいただきたいということと、話し合ってますので。

で、坂本さんにも一つお願いです。同じ経路から、同じ話が入って、ずっとそのことについて、あの、片山さんから一方的な説明をされると、私も、それが一方的な説明でここでは誰も納得していないということを、その都度言わなきゃいけないので、できれば同じ経路で、あの、話のコースが入らないようにしていただきたいと思うんですが。

**【坂本代表者】**

あの、今おっしゃった、あの、森口さんの話、ちょっと私は今わかんないんですけども、あの、基本的にはですね、あの、片山さんがおっしゃっていることは、私はもう重々わかってるわけなんですよ。で、今、世の中がどのように進んでいるかということになると、その、一般財団法人の、あの、何ですか、あの、焼却施設、うーん、えー、発電施設、あの、焼却発電施設の動向を見るとわかりますようにですね、なぜあの、資源物処理施設ができれば焼却施設ができないというのか、そこがわからないんですよ。実際、全くわからない。おっしゃっている意味が全くわからない。やっているところがいっぱいあるじゃないですか。今どんどんどんどんやっているじゃないですか。だから、そこからもう食い違いが出て、最初からのボタンのかけ違いで、そんなこと言われてもね、あの、市民の税金を何でそんなのに使うんだというのがあるわけなんですよ。

だから、今までどおりやれば、やっていける話じゃないですか。何十億もかけなくても。だか

ら、そのところで、もう全然もう問題がね、ぼた、あの、ボタンのかけ違いです。何で、あの、じゃあ言ってください。資源物処理施設をつくるメリット、デメリット。それで、あの、資源物処理施設をつくらなければ焼却施設はできないって言う理由をおっしゃってください。

**【片山参事】**

あの、まあ、皆さんが一番その、何ていいますかね、あの、えー、不安といえますか、不審に思われているところだと思います。で、私の説明がよくないのかもしれませんが、まあ簡単についていいますか、えー、平たく申し上げますと、例えば学校をつくるというときに、生徒が何人入ってくるのか、それから、その生徒は小学生なのか中学生なのか高校生なのか、そういうものを分析するとともにですね、それが将来どうなっていくのかというものをある一定の予測を行ってですね、学校の設計をすると思うんですね。それと同じように、安定して継続した、あの、プラスチックの処理を担保した上で、その下流側の粗大ごみ処理施設や焼却施設、そういうものを整備していこうと、こういう考え方で動いていますので、もう3施設がもう一体で動いているということは、まあ、ご理解はしていただけなくてもご承知はしていただきたいと思っています。

で、それがあの、最大の、3市共同資源物処理施設のメリットでございまして、えー、不燃・粗大として処理するごみの量も減らせますし、焼却するごみの量も減らせます。最終処分場へ持って行く灰の量も減らすことができます。で、そういう意味で、あの、そこが、まあ一番の効果、資源物処理施設のですね、効果だというふうに、私どもは考えています。

**【坂本代表者】**

あの、今のに反論させてもらいますけれども、片山さんのね、今おっしゃっていることは……。

**【邑上会長】**

すいません、あの、すいません、すいません。ごめんなさい。あの、同じことをずっと、ずっとやってきているので、あの、一旦ちょっとここで切りたいんですが、あの、今回がですね、ちょっと岡田さんがいないからですけど、この報告書がなかなかいいことが書いてあってですね。そうですね、7ページ。7ページにですね、いいことが書いてあるんですよ。

えー、3Rですよ。3Rには取り組む順序がある、順番があるんだよ、一番大事なのがリデュース、次にリユース、そしてリサイクルだ、と書いてあってですね、ごみ量を減らす減量が最初ですと書いてあります。

ということでいうと、あの、まあ本来は、有料化してごみを減らすとかが最初だよってここに書いてあって、まあこれは、今のここの、4団体でやっている順番とは、まあ東大和市はやってますけど、やってないので、まあこことは違うなというのがありますね。なので、まあ、これが一つ、まあ、あの、順番の解になっているのかなと思いますけれども。まあ、これ

は一つ例ですね。まあ、この話はこれで終わりにしてですね。

まあ、このことを、我々、多分、最初からずっと言ってると思うんですけど、今は、まあ衛生組合含めてですね、えー、そうじゃないと言っているの、まあそこは何度言ってもですね……。

**【片山参事】**

いや、そうじゃないって言ってないですよ。

**【邑上会長】**

あ、いや、違う。だって、有料化先にやらないといけないんじゃないですかっていうのはずっと問いかけしてて、それはでも、何年後です、で、やるかどうかもわからないわけですけど、何年後って話になってて、今やってないので、順番が、この順番じゃないじゃないですか。だから、違うでしょうって言っているところは、すれ違ってるじゃないですか。

**【坂本代表者】**

おっしゃるとおりです。

**【片山参事】**

それは、それは、それは……。

**【邑上会長】**

いや、で、で、いやだから、事実そう、そう、とにかく、ごみ減量のリデュースを、えー、何かやってきましたかって、多分、ね、前々から、松本さんとかも言われてると思いますが、それに対しては、積極的に何かやっているとこの解は得られてないと思ってますけど、何かありましたっけ。

**【片山参事】**

いやいやいや。あ、今のごみ量予測はですね、あ、有料化を見込んだ将来予測になっています。有料化に伴うげん、あ、減量も含めたですね、将来予測になっています。あ、追加事業で……。

**【坂本代表者】**

有料化やってないわけでしょう。

**【片山参事】**

有料化の問題は、ですから、何度も申し上げますけれども、あ、小平は、小平市民と、小平の中で考える問題であって、それはあ、私どもとしても、まあ、ごみを減らすということですから、有料化は必要なことはわかってますけど、それぞれの市で考えることだと思うんですよ。そうですね。

【邑上会長】

いいですよ。いいんですよ。いいんですけど……。

【片山参事】

それを、例えば私どもが衛生組合として有料化しなさいとか、例えば東大和市民の方がですよ、えー、小平市は有料化しなさいとかって言うのは、ちょっと、違うのかなと思うんですけども。

【邑上会長】

それはいいです。

【片山参事】

それは理解していただきたいと思っています。それだけは言わせてほしい。

【邑上会長】

あの、ほかの市が、隣の市に対して言うのは、まあちょっとどうかと思えるので、それはそのとおりですよ。で、えーと、ごみ量が減量するのを予測されて計画しているのは別にいいと思うんですけど、ごみ量が、実際減量する施策を打って減量されてないので、順番が違いますよねっということ、多分皆さん、言ってたと思います。なので、ただそれだけを今、言いたかっただけです。これを見ていて、おっ、おお、いいこと言ってるなと思ったので、ちょっと見ていただきたいなと思っただけです。まあ、ここはそれだけです。それ以上、すれ違っているというか、あの、なかなか、あの、かみ合わないの、あの、一旦ここは終わりにして、えーと……。

【小川専任者】

いいですか。

【邑上会長】

あ、はい。じゃあ、あの、マイク使ってください。

【小川専任者】

イーストスクエアの小川です。えーと、次に、組成分析のが、ことがありますので、長くは申し上げませんが、まあ、まず1つ、まあ、あの、片山さんからの発言がありましたけど、それに対して、あの、会長からお話がありました、それが大事だと思います。出口、あの、出発としてね、そこから始めないと、えー、3市共同資源物処理をつくらないと、ごみ焼却量が減らねえと。その前の話をやってるんですよ。

それと、もう1つは、3市の行政のごみ対策の課長さんたちをお願いしたいのは、その、リデュース、どのくらい努力したのか。それが問われていると思うんですよ。それをやらないで、このところを議論しないで、ここに来てると思うんですよ。まあ、行政は行政でやったと言ってますけれども、連絡協議会じゃそれ、いつも、市民懇談会から始まって、ずーっとそのことを言

ってますよ。で、それが1つも取り上げられないということが1つ。

で、もう1つは、あの、この仕様書の、私はもう、この建設、こんなの要らないとは思ってるけれどですね、言いますけど、えーと、30億か40億って当初言われてましたよね。で、さっき坂本さんが言われてたんだけど、予定価格は何だと。で、どこでも落札価格が99%で落札されたと言いますが、それがどうなったのかがはっきりしてないことが、私、一つ、疑問に思います。で、それが1つ。

それからもう1つ、あの、お話、前からお話ありましたが、えー、私も、前回の、うー、都市計画審議会には参加、傍聴できませんでしたけど、その前は傍聴しました。そしてまた、懇談会も、それに伴う懇談会もありました。で、その中で、あの、いつも言ってますけども、一貫して言ってますけど、連絡協議会とか、いろいろなところで議論されてもかみ合わないし、えー、一方的な説明しか、あー、なっていません。そして、それを、あの、一般市民の方々には、その内容が、あの、知らされてないんですよ。まあ、ホームページで皆さん見てくださいというけれども、ほとんど見てないのが現状だと私は思います。

それで、えんとつでも出ましたけど、何回やりました、どんな連絡協議会で、あの、内容が検討されたかもやっていません。それから、もう1つ、あの、市民たちの、もう、この、周辺住民以外の方々が100名ぐらい集まって、あの、私も参加しましたが、あの、必要じゃないんじゃないかと。そんな無駄な金を使ってどうするんだというのが、大方の意見なんです。それで、あの、ある方が、その、東大和市の、だけと言ってたんですけども、あの、財政の、あの、読みましたら、これを、3市共同資源物をつくらなければ、年間4,000万ぐらいの削減になる、予算が、削減されるんですよ。それに、将来コストまで考えると、もっと、あの、削減できるということ、あの、知らされた方もあります。

そういう、市民の声を、真摯に受けとめて、あの、衛生組合と、3市の市は、酌み取るべきだと思います。で、それで、まあ、3市共同資源物処理も、また繰り返しになりますけれども、安全安全と言いますが、もう今はしきりに豊洲問題で、安全と安心と言いますよね。安全は完全な根拠に基づいてやりますけれども、安心ちゅうのは、周辺住民、市民の理解を得て、信頼関係を、あの、蓄積されなければいけないと思いますよ。それが全然なされてないということなんです。

で、これを、さっき、片山さん、もっともらしくおっしゃりましたが、まあ、理屈じゃそうなると思いますけれども、さっき言われました、一番最初からの、出発点から、真摯な市民との、行政との、対等な立場で議論されてないところに問題があるので、かみ合わないままずっとこっち来てるんですよ。ということ、一方的に、片山さんがおっしゃったので、あの、まとめてお

話ししました。内容は、今まで言われた、言った、あの、主張してきたとおりです。

以上です。

**【邑上会長】**

はい、ありがとうございます。えー、はい、お互い、すれ違っているままなので、まあ仕方ないですね。

えー、ちょっとですね、あの、一旦ここで、終わりにして、ちょっと、もとの、仕様変更に伴う経費についての資料について、若干の質問なんですけど、今回、メタウォーター社が落札されているということでよろしいんですけど、ね。この1番の経費比較表は、そのメタウォーター社にこの内容をやったらどうなのという問い合わせをした結果の金額だということでもよろしいですか。

**【伊藤課長】**

今、会長がおっしゃったとおりで、メタウォーターのほうに、まあ問い合わせ、この金額を出していただいたということです。

**【邑上会長】**

はい、ありがとうございます。あとはこの、この、経費についてはあれですかね、まあ岡田さんだったら何か質問があったかもしれませんが、またそれは、次回していただくことにして、特になければ、これは終わりにしたいと思います。

あとですね、前回の議事録をちょっと見てたんですけども、一つこれ、今の経費が宿題なんですけども、えーと、坂本さんから、何かスペック、前回何かスペックの資料が出て、そのスペックに数字が入ってないので、それを提示してくださいというふうに書かれてて、メーカーより回答があったら、まあ、書きます、あ、出しますみたいな形で書かれてたんですけど、これは、メーカーよりそのスペックが提示されるというのは、今回じゃなくて、先ということ。

**【片山参事】**

先ですね。

**【邑上会長】**

じゃ、それはいつぐらいなのか、ちょっと、あの、大体的な。ここは、多分残しておかないとなくなっちゃうじゃないですか。なくなっちゃうとか、見えなくなっちゃうんで、この回答はいつぐらいとかって、残しておかないと、ずっとその、スペックが出る時まで残しておかないと、スペック出すっていう約束があったよねって忘れちゃうじゃないですか。なので、今、大体いつぐらいかっていうのを。あ、別にあれですよ、言った、言ったよねっていう、その月に出せとかいう意味じゃなく、大体いつぐらいだっっていうことを、ちょっと残しておいて、で、その、



出てきた時期が、まあ、前後ずれてもいいと思うんですけど、そのときに出していただくということ。まあ、この質問がなくても出していただけるのかもしれないんですが、一応あの、ちょっと残しておいたほうがいいかなと思うんで、ちょっといつぐらいかっていうのを、ちょっと回答いただければと思います。

**【片山参事】**

あの、まあ、設計施工発注なので、順次、そういうものが埋まってくるので、まあ埋まってきた段階で、ここがこういうふうに埋まりましたよってというような形で進めさせていただけたらなと思っています。

で、土木建築のほうは、先ほども申し上げましたとおり、えー、まちづくり懇談会等意見も踏まえまして、確認申請までにはほぼ固まりますけども、実際に機械を納入するのは、その上に乗せる機械については別にまた詳細の協議を行いますので、その段階でわかりましたら、その時点で埋めていくというような形にさせていただきたいと思います。

**【邑上会長】**

どの辺とか。何年何月ぐらいとか。何となく言えないんですか。中ごろとか何でもいいですけど。何か。何か言ってもらわないと。

**【片山参事】**

ああ、そうですね。建設工事を進めながら、あの、承諾っていいですか、えー、詳細の機器を決めていくというのもありますけれども、おおよそですね、29年……ここが、着工……そうですね、29年度末ぐらいには、ほぼほぼ、あの、細かいところまで決まってくるのかなというふうに思ってますけど。

**【邑上会長】**

じゃあ、来年の今ごろというか、3月4月ぐらいのイメージですね。

じゃあ、一応、今の時点では、じゃあ29年度末ぐらいごろということで、一旦書いておいていただき。

**【森口専任者】**

はい。

**【坂本代表者】**

はい。会長、よろしいでしょうか。

**【邑上会長】**

はい。手短にお願いします。

**【森口専任者】**

ちょっと29、29年度末ぐらいには細かいところまでわかるとおっしゃるのですが、ことしの12月から、工事始まるんですよね。工事始まらない。る。わからないうちに工事始まります？

**【片山参事】**

現状では、ですから、あの、建築のほうは、えーと、そこで、もちろん建築確認申請を出すわけですから、その時点で固まりますよね。ただ、機械については、詳細の検討がありますので、えー、同時並行的に土建を進めながら固めていく部分も出てくると思います。まあ、もちろんそれより前に決まってくるものもあると思いますけれども。

**【坂本代表者】**

会長、よろしいですか。今、会長は非常に、あの、大事なことをおっしゃったと思います。えー、片山さんのおっしゃっていることは、全く回答になっていませんで、あの、そもそも、契約ということをやったことないんじゃないですか。

で、この前、私のほうから、あの、スペックの未記入数字の提示ということをお願いしたのは、この、通常の、仕様書を書くときには、これと同等以上とか、これを満足するものとか、そういう表現で数値を全部入れておかないと、こういうのは基本的に、入札も、要するに、あの、予定価格もできないですよね。それが、メーカーより回答あり次第お知らせします。全部メーカー丸投げじゃないですか、これは。だから、自分の頭で考えて、自分の頭で汗かいてないから、そんなことがどんどん言えるわけなんですよ。

私はもう、ちょっとね、今の回答にしても、ちょっと信じられないですよね。検査員なんか聞いたら、卒倒するぐらい、あの、驚くようなことを言っているわけですよ。建物と、これは違うって、これは全体を、建物も、要するに、設備工事も全部一体化してからの、その金額でしょう。だから、建築確認とか、全然別々の話をしてるけれども、設備があつての消防の検査とかあるわけなんですよ。全て。だから、建物を建てると、小学校の例をされたんですけれども、小学校の例なんて、規模とか、そういうものはどうこうとかいうのは、学校教育法で全部決まっています。どう、どれぐらいないといけない、将来はどういう見込みとかいうのを全部出さないといけないようになってます。だから、そんなのも全くやってないじゃない。今の話では、契約ということをやったことがないから、そういうことが言えると思いました。

以上です。

**【片山参事】**

あの、坂本さんのおっしゃるのは、あの、もっともだという言い方は変なんですけども、こう

いう発注形態っていうのは非常に特殊で、多分……。

【坂本代表者】

特殊じゃないですよ。みんなやってるんですよ、全国で。

【片山参事】

市役所では、市役所ではやってない契約だと思うんですね。で、性能を追求していますから、ただ17トン、それから6トンのペットボトル、えー、それから公害防止はこうですよと、そういう機能を規定をして、設計も含めて任せていますので、えー、そういう面で、あの、協議しながら、まあ承諾のやりとりをするんですけどね。えー、その中で、しせ、あの、機器の詳細は決めていくと、いうふうになっています。

【坂本代表者】

でも、ここだけの……。

【小川専任者】

あのね、特殊なちゅうことでね、にげ、逃げないで、そんなの。特殊特殊って。

【片山参事】

ええ。なかなかそこはあの、うん、ぎ、私どもの、あの、議員さんにもなかなか理解をいただくのは難しい……。

【小川専任者】

理解できないですよ。

【坂本代表者】

理解できない、おっしゃっていることが。

【小川専任者】

いくら特殊でも説明すれば、できるんですよ。

【片山参事】

ところなんですけども、それがあの、設計つき施工契約なんですね。

【小川専任者】

おかしいだろ。

【片山参事】

だから、設計をしながら、まあ、あの、一部分、あの、建築物については、あの、まあ、えー、着手していくと。着手しながら、えー、個々の設備機器の詳細について協議していくと。こういう進め方になっているんですね。

【坂本代表者】

そんなことあります？ どんどんどん。森友学園じゃあるまいし。

【小川専任者】

何かね、曖昧だよ。時間がないよ。

【邑上会長】

邑上です。えーと、まあ、そうですね。この話ばかりやってもあれなんですけど。一応あの、前回は、ラスト同じようなことをやりとりされてますけど、多分その、仕様を決めて発注してるという方式と、違うと言ってるんですよ。

【片山参事】

性能を。性能を決めて。

【邑上会長】

うん。だから、どう、まあどういうやり方でもよいとは言わないまでも、その、最低限決めなきゃいけないところと、まあ今回、性能っていうものが仕様になって、えー、いるので、その性能を満たすために、何をどうするっていうのはお任せしてて、やるっていうことなんですよ。

【片山参事】

まあ、お任せって言葉はいいかどうか分かりませんが。

【邑上会長】

いやいや、だから、設計、設計に任せて、まあ最低限押さえなきゃいけないところは仕様として出してるんでしょうけども、まあ性能が一番満たさなきゃいけないところだっていうことなんですよ。だからちょっと、それが違うということなのかなと思いますが、えーと、この、下のあの、線引きの、13で設計期間ってあるじゃないですか。そこで設計が完了するんじゃないんですかね。そうするとその、29年度の中ごろには、仕様が決まってるんじゃないかって思うんですけども。それはまたちょっと読み違いですかね。それ、どうなんですかね。あの、上の機械がかわ、変わっちゃうとその、何ですかね、土台というか、基礎とかいろいろなものが、何か影響を受けそうな気がするので、工事が始まってから仕様が確定するというのは何かおかしい気はするので、設計の時点で仕様が決まってないとおかしくないですか。もし、えーと、この、15番の新施設建設工事っていうのが、その、何ていうのかな、更地にするとかそういうその、土木的なところで、えー、建物とかに関係ないっていうのであれば、なんか少しは理解できるんですけど、それであれば設計期間がもっと延びて、重なってないとおかしいのかなっていう気もするので、えーと、仕様が決まってない、ごめんなさい、仕様が決まるのが、もし、29年度末であるんだったら、設計期間がそこまで延びてないとおかしくないですかね。そんなことないですか。

【坂本代表者】

そう、おっしゃるとおりです。

【片山参事】

まあ、これ、当初スケジュールなものですから。

【邑上会長】

でも、これも当初スケジュールじゃないですか。だからちょっと。

【片山参事】

うん。まあ、安全、安全サイドに回して申し上げたってことになるかもしれませんが。

【坂本代表者】

図面がなくて、確認申請するのかい。

【小川専任者】

みんな結構曖昧だよ。

【山崎専任者】

時間ばかりたって。

【小川専任者】

時間ばかりたって。

【邑上会長】

じゃああの、まあせつ、あの、まあ今ちょっとここで言っていましたけど、6番の都市計画決定がずれてきているので、えー、ほかの、まあ8番以降ですね、まあ11と12は実績があるから別ですけど、じゅう、8番以降が、ずれてない状態になってるんですね。だから、ちょっとおかしく感じているってことですかね。だとしたら……あ、そうか。だから今の時点で、ずれたら、ずらしておい、後ろもずら、ずらさなきゃいけないところはずらしておかないとやっぱりなんかうまくないですかね。というふうに思うので、あの、ちょっと、あの、次回でいいんですけど、ちょっともんでいただいて、あの、ちょっと線引きずらずならずらしていただいたほうが、あの、いいかなと思いますので、お願いします。はい。

【片山参事】

まあ、あの、今、ご指摘いただきましたので、メーカーのほうともですね、どんなスケジュールで、あの、詳細設計が固まっていくのか、ちょっと調整をしてですね、あの、説明できるような形とりたいと思いますので。

【坂本代表者】

そもそもこのスケジュール表は、あの、手続的に瑕疵がありますよ。全く前後がもう、わかっ

てないじゃないですか。そんなことを、先にやらなければならないものを後にして、後でもどうでもいいようなものを先にしてとか、もう全く、あの、瑕疵、間違いばかりじゃないですか、このスケジュール表は。

だから、基本的には、都市計画決定がなければ、一步も進まないわけですから、それから確認申請とかに入りますけれども、それまでには仕様もまとまって、あの、建築設計もできておかなきゃいけないし、設備もできてないと確認申請、確認通知は下りないですね、絶対に。だから、そんな簡単なもんじゃないですよ、設計というのは。

**【邑上会長】**

すいません、スケジュールのほうは、えー、まあ、ずれた部分で、全体的にずらしたりとかです、まあその整合はもう一回確認していただくということでお願いしますので、次回、提出されるスケジュールは、まあちょっと変わったものになるんじゃないかということで、お願いしたいと思います。

で、大分また時間が過ぎましたので、6番ですね。ごみ量予測について。これは最初にやりたいですね。ちょっと行けないですね。で、本当は5番のこの図面の話もですね、やりたい部分があるんですが、ちょっと仕方ないので、これはやっぱり飛ばすしか。今は、やらない。

**【片山参事】**

あの、次回検討していただく……ちょっと、ちょっとだけいいですか。

あの、まあ当日配付ということで、あの、今すぐ議論してどうのこうのという気はさらさらございません。ただ、あの、今、あの、図面のほう、協議図面ということでですね、1点目としては、計量機を2台にしましたよ。もう1つは、クレーン操作室を設置しましたよ。で、3つ目として、えーと、排気の場所ですね、をお示ししましたので、まあ次回、これをもとにですね、議論をいただけたらなというふうに思っていますので、えー、よろしく願いいたします。

**【邑上会長】**

じゃあすいません、せっかくなので、今の図面、あの、次回ですけども、最初の、2枚。2枚の違いがちょっとわかんないんですけども、2枚が、あ、施設の図と、車両の動線ですね。はい。じゃあこれがあの、最初の2枚が、計量機を2つ、右下のほうと、真ん中の下のほうですね、になったということですね。で、3枚目は、中にあった計量機を使うっていうあれですね。4枚目はクレーン。で、5枚目と6枚目が、排気口の、えー、まあ上から見たところの位置と、横から、まあ高さ方向を含めての位置が載っているという。クレーン操作室と排気口ですね。ということだそうなので、まあこれは、今日はちょっと、触れずに、次回ですね、やるということで、いきたいと思います。

で、またあの1時間ちょっとしかないですけども、ごみ量予測についてということで、進めたいと思います。えー、まず1つ、これあの、日付、右下、右上の日付が3月11日になっているのが4月8日ということですけど、これは直った状態で、後でウェブに載るということでいいですよ。

【伊藤課長】

はい。

【邑上会長】

これは、これって山崎さんに振っちゃっていいんですか。

【山崎専任者】

はい。

【邑上会長】

この、ところから。あ、ごめんなさい、ここから、この内容から、山崎さんのほうに、バトンを渡しちゃっていいですか。

【山崎専任者】

そうですね。

【邑上会長】

はい。じゃあ、お願いします。

【山崎専任者】

あの、ごみ量予測、まあ、4月8日に訂正したやつ、資料ですけども、あの、前回の協議会でも、あの、事前に配付してくれるっていうようなお話を、お一、してました。で今回、あの、3月30日の、都市計画審議会の傍聴に行ったときにも、伊藤課長と片山さんのいるところで、いつ返してくれるんですかというような話をしたら、あの、年度末で忙しいというようなお話をいただきました。まあそうかなと思いますけども、まあ、誰でも忙しいですよ。それと、あの、会議録の確認結果をしたときに、メールでもお願いをしました。でも返事も何にも来ないです。ちょっとひどいですよね。そうやって約束しててね。で、返事も来ない。いついつ、いつ出るんですか。回答お願いしますってメールで書いたんですけども、結局来ない。で、最終的には、片山さんのほうから、当日配付ですと。協議が済んでません。で、済んでないんだったら、自分のほうからね、こうやって、メールをくれるとか、くれるとか、電話をくれるとか、そういうのが誠意じゃ、誠意なんじゃないですかね。我々も遊びでやってるわけじゃないんだし。まあそれが1つです。で、次回からは、間違いなく、事前に、えー、配付をお願いしたいと思います。

で、この内容ですけども、実際は協議は済んだんですか。当日配付なんで。で、また、済んで

ないんで、えー、回答が違いますとなったって話になっちゃうんですか。それ、まず、基本ですので。

【伊藤課長】

はい、えーと、こちらのほうはまあ前回もお約束しました、まああの、3市4団体でという形で、えー、まとめ上げさせていただいた資料です。で、すいません、それにまあ、時間がかかってしまったというところ、まああんまり、言っても言いわけになってしまうんですが、そのような形で、今回提示させていただいた資料です。

【山崎専任者】

わかりました。それとですね、この資料なんですけども、この前もあれしましたけども、あの、一回書いたものは消さないで、残して、で、新たに、あの、新しい回答内容を書く。要するに、ずっと記録を残していってくださいという話になってるんですよ。で、これ見るともう、消しちゃってるし。だから……。

【伊藤課長】

そ、それは、み、見え消しっていう形で。

【山崎専任者】

え？

【伊藤課長】

み、見え消しで、もともとのものがわかると思いましたが。

【山崎専任者】

わかりますけども、これ、消すんじゃなくて、その下を書くんですよ。消さないでそのまま残しておいて、追記追記っていう形になるわけでしょう。

【伊藤課長】

そうですか。

【山崎専任者】

それが1点と……。

【邑上会長】

じゃあ、山崎さんとしては、例えば最初のこのベースデータがいつ提示されましたかっていうところに、まあ人口とどうのこうのって書いてある、4行ば一っと線が入ってますけど、これは、例えばいついつ回答、で、その下の、平成28年何とかの資料で、ですとかっていう1行は、いついつ回答。



【山崎専任者】

そうです。日付を書いて。

【邑上会長】

まあ、まあ、訂正していついつ回答、みたいな、そういう。

【山崎専任者】

ええ。じゃないと、ずっと、なんか、途中までやったやつをか、直して、で、これが最終回答だっというような形になっちゃうじゃないですか。そうじゃなくて、何月何日に回答したのがこれで、です。それがおかしいから、指摘されたから、直したのがこれです、というのをずっと残して行ってくださいという話なんです。そうじゃないと、わからないでしょう。最初の、あれだと、全部書き直しちゃって、前のやつ全部消しちゃって、それで、最新のやつだけ書こうっていうような話だったから、それはやめてくださいっていう話でした。結局、回答が、こんだけずさんな回答を書いてたよということがわかるようにしてくださいっていう話です。それとです、いいですか、それは。お願いしてもらっていいですか。じゃないと毎回毎回同じ指摘しなくちゃいけないんで。困るんですよ。

【伊藤課長】

わかりました、わかりました。今の、ええ、お話で。まあ、我々は残すっていうイメージで、まあ線を引いたっていうところが。まあ、ちょっとそこは食い違ったのかなというところがありますので、今話を受けましたので、その形でいきましょうと。

【山崎専任者】

うん。ですから、日付を入れて、何月の何日の回答だよっていう入れれば、なに、何回も回答してるよねっていうのがわかり、残りますので。

あともう1点ですね、あの、ここに書いてある内容もちょうと、あの、文言が違うのがこう、線引いてあるところをざっと見たんですけども、あるんですよ。だからもう一回ちょっと見直してくれないですかね。

あの、具体的に言うと、あの、1番、1の、質問1-1で、えー、回答として、まあ、線引って張ってありますけども、人口と排出量の予測値をまとめたベースデータの一部、括弧して、と書いてあるんですけども、リストの内容は、ベースデータの一部なんて書いてないんですよ。だから、ね、ここ、一部って書くと、あの、前、前回の協議会で説明したように、片山さんが言い張ってましたけども、この、ベースデータの一部だと。というようなことを言ってますけども、でも、この、リストに書いてある、ここに書いてある内容は、一部なんてどこにも書いてないんですよ。ベースデータだって書いてあるんですよ。だからそれをね。ここに、違うこと書いちゃまずいで

しよ。

**【邑上会長】**

わかりました。じゃあの、もともとの、ぶ、文面というか、文言と、じゃあ同じものにしてくださいと。まあ当たり前のことですが、そういう指摘でいいですね。じゃあそれは、そういうことでいいですよ、それはね。

**【山崎専任者】**

ぜひ。ぜひお願いしたいと思います。

で、あの、今日配付されたので、その、数値的なものや何か、まあざっと見て今、こんな気がついたことですが、数値的なことは、あー、質問1-2、3/13のところ、えー、数値が出てますけども、これについては、まあすう、これ、結果だけですよ。で、私が質問したのは、よそ、平成31年度以降の、小平市が燃やしている、これあの、予測値を、どのように出したか。ですから結果を聞いている、結果は実施計画書に書いてありますので、それはわかります。だから、どうやって出したかっていうのはベースデータに書いてあるわけでしょう。ですから、ベースデータで、じゃあ組成分析はこうやって、で、どういう予測方法をとって、で、実際にはこうなりましたよっていうことを、流れがわかるように、わかりやすく図や表にしてくださいって質問してるの。結果、書かれても、その、どうやってやったのっていうのはわからないじゃないですか。

**【邑上会長】**

はい。これはあれですよ、あの、どのよう、予測値をどのように出されているかだから、予測値を算出したプロセスを明らかにして、わかりやすく表現してください。我々が、みんながわかるようにしてくださいと。あの、その結果、値がいいか悪いかはまた別ですけど、どういうふうにしてこの値を出したのかをわかるようにしてくださいってということなので。そういうことなんですけど、どうでしょう。

**【片山参事】**

ちょっ、ちょっと待ってください。

**【邑上会長】**

はい。

**【山崎専任者】**

じゃあ、それを直してもらおうということでもいいですか。あの、時間、もう、8時になっちゃったんで。

【邑上会長】

何か、資料があるらしいので、じゃあ、ちょっと探しておいていただいて、次に。

【山崎専任者】

うん。まあ今、今日、これやるつもりないです、もう、質問1-1、1-2って。もう3回も4回もやってるので。

【片山参事】

これあの、ごめんなさい、2月のね、資料なんですけど、この予測の方向を説明した資料がここにあるんですけど、これではわかりづらいということですか。この、どうやって予測したんですかという質問を、前にもいただいていたので、こちらで説明をさせていただいたので。

【山崎専任者】

資料をもらった覚えは、何となく覚えてますけども。

【片山参事】

2月18日。

【山崎専任者】

説明も何もないんで、結局は、ほとんど覚えてないっていうのが実情です。そういう……。

【片山参事】

そうですか。じゃあこれを、これではだめだっていうことではない。

【山崎専任者】

いや、わからない。そういうことだとすれば、今回のところにも、3月で配付したやつ、うー、ほかのやつも配ってくれてるじゃないですか。

【片山参事】

ええ。

【山崎専任者】

だったらそれも一緒に入れてくれれば、もっとわかりやすいのかなと思うんですよ。

【片山参事】

わかりました。

【山崎専任者】

いきなり質問されて、指摘されて、あ、こんなのあるよって言われても、うー、よくわからないですね。正直言って。じゃそれを、まず、じゃ私も確認しますけども。

【森口専任者】

今言った、2月の資料は、2月の資料の何番になりますか。先月ですよ。

【邑上会長】

先々月ですね。

【森口専任者】

あ、先々月。はい。

【伊藤課長】

2月18日の資料で、資料的には一番最後、7番ですね。ごみ量予測説明資料。たしかこのとき、片山参事がここで説明したような気がしますけど。

【片山参事】

ええ。時間、ええ、時間いただいて説明したと思いますが。説明したのが3月だったのかもしれませんが。ちょっとそこら辺の記憶が曖昧で申しわけないですが。

【山崎専任者】

じゃあ、そこは、確認します、私も資料をちょっとあれして。

で、質問1の……。

【邑上会長】

あ、いいですか、ごめんなさいね。えーと、一応その2月の、会議要録というか、まあ、森口さんと岡田さんでつくってもらっているものでは、8番にはちゃんと○がついています。

【山崎専任者】

説明したわけですね。

【邑上会長】

ちょっと、私も全然記憶ないですけど。一応したそうです。

ただ、ただ、山崎さんが言われたように、この1-2の、回答としてはこれはおかしくて、2月18日の、この8番のこの、ごみ量予測説明資料。によるとかね。っていうような書き方じゃないと、やっぱりおかしいですね。はい。

はい、じゃあすいません、じゃあ次、お願いします。

【山崎専任者】

ということで、あの、今日が、もう1時間、ないんで、質問1-1と1-2は、あの、どっちもやって進まない内容なんで、これ以上はやりません。で、内容については、書面でいたします。で、次回に回答をいただく。ということでさせていただきます。

で、質問2の2っていうんですかね、そこらいきたいと思います。それでいいですか。

【森口専任者】

書面でお出されるんですか。

【山崎専任者】

自分のほうから、まあ要求、確認事項リストとして、その、今回の回答、質問1-1と1-2の、不明な点を、お一、リストとして出します。それに、私の質問内容に対して、回答を、書いていただければ。

【邑上会長】

あ、今日の時点だと、これは今出されたものなので、深く話ができないので、持ち帰って、もう一回質問事項にまとめますということですね。

【山崎専任者】

はい。2週、まあ十日か2週間ぐらいには。後ぐらいには。

【邑上会長】

あ、次回の協議会じゃなくて、その、今日から、まあ、2週間とか。

【山崎専任者】

あ、そうですね。

【邑上会長】

後ぐらいに、提出して、次の協議会にも出して。

【山崎専任者】

出しますので、で、組合のほうからは、また、次回の協議会の1週間ぐらい前に回答をいただきたいという話です。じゃないとまた、もらっても、その場でみ、読むとなると……。

【小川専任者】

結局、わかんないわけですよ。

【山崎専任者】

わかんないですよ。特に数字なんていうのはね。ということでお願いしたいと思います。

【邑上会長】

よろしいですね。

【山崎専任者】

で、2-2からでいいですかね。

ここもそうなんですけども、2-2の回答で、えー、5/13もそうなんですけども、回答として、一番上ですね、2016年11月12日の回答、資料は10月15日配付済みと書いてありますけれども、これも前回のとき指摘させていただきましたけれども、資料名は書くということになってたと思うんですけども、それも抜けてるんで、本当に協議したのかなって、正直思います。これ、基本的なことですよ。我々は話を聞いているから、まあ、ああいう資料だろうな、こうい

う資料だろうなっていうのはわかりますけども、全くここに参加してないような方は、全然わからないですよ。

【邑上会長】

5 / 13 の、一番最初の行ですね。

【山崎専任者】

そうですね。

【邑上会長】

えー、2016年11月12日の回答で、資料は10月15日配付済みです。だと、何の資料だかわからないよねということですね。

【山崎専任者】

そうですね。

【邑上会長】

何か資料名なり何なりを入れてくださいというのが1つですね。

【山崎専任者】

そういったことがちょろちょろあるみたいですので、ぜひお願いしたいと思います。

で、えー、質問としては、2-2の質問として、組成分析による予測が最も適切とのことですが、比較した他の予測方法を教えてくださいってということで、えー、回答が、他の予測方法により予測は行っていませんという回答です。今まで、えー、言い張ってた内容が全く違ってたっていうことだと思うんですけども、えー、あの、私、聞いているのは、比較した他の予測方法を教えてください。予測は行ってませんじゃなくて、比較したのかどうか、比較したんだったらその予測方法を教えてくださいってことなんですね。やったかやらないかということじゃないので。それについてどうですか。

【片山参事】

この、趣旨も、質問の趣旨がですね、比較した他の、また、あの、解釈の違いだとか何とかご指摘を受けるかもしれませんけども、比較した他の予測方法を教えてくださいという問いなので、他の予測方法はとってないんですね。なので、このような回答にさせていただいてまして。

【山崎専任者】

ですから、回答としては予測方法、方法は、あ、他の、他との比較はしてませんということなんじゃないですか。

【邑上会長】

そう。そうですね。あの、文章として違うということ言ってるんですね。あの、聞いている

のが、比較したほかの、その、他の予測方法を教えてくださいだから、比較してませんというのが回答だということですよね。はい。まあ、言いたい意味はわかるんですけど、ほかのことでやってないというのはわかるんですけど、比較したかしてないかっていうのを聞いているので、比較したなら比較したものは何かと聞いているので、比較してませんと答えるのが多分正しいでしょうという指摘です。今のは。

【片山参事】

いや、比較……まあ、まあいいです。はい、わかりました。

【坂本代表者】

まあ、最も適正という意味は、全然違ってくるじゃないですか。

【山崎専任者】

そうなんです。あの、最もって言うとな、毎回言ってますけれども、何かと比較して、こっちのほうがすぐれてるよということで最もっていうのは普通使うわけですよ。日本語はね。

【小川専任者】

そうだよ。

【山崎専任者】

うん。だけど、まあ多分、最もって使うと、まあ、強調されますから、そうすると、組成分析が一番正しいんだよって訴えたいんだろうなと思うんですけども、でも実際にやってないじゃないですか。

【小川専任者】

じゃあ適切でもないんだよな。

【山崎専任者】

まあ、適切だと思いませんよ。今、これから質問しますけれども。

【小川専任者】

うん。比較して、これが一番適切だと言ったらいいんだけど。やってないから適切じゃない。

【山崎専任者】

実際にね、だから結局は、そういうことでしょう。最もって書けば、ね、あの、適切そうだと。読めるな、みんながね。ということで書いちゃったんですよ。だからそういうこともね、正直に書けば、こんなね、半年もかかってね、この1つの回答を書くのにね、時間かからないんですよ。なんか自分の間違いをさ、認めたくないっていうようなやり方進めるんで、結局こうなっちゃうんですよ。まあ、これはいいです。

で、まあ、あの、他と比較してないって言うんですけども、まあよそ、いきなり、組成分析を、

で、予測しちゃったわけですけども、その、武蔵村山とか東大和市は民間委託使って、えー、実際処理を、あー、プラスチックの、容器包装プラの処理してますけども、これとの比較は考えなかったんですか。検討しなかった。一番、これ、実績を上げていますんでね。予測と、予測方法としては、一番これが適切かなと思うんですよ。私が考えるには、それこそ最も適切なのが、民間委託を使ってじっせ、実際に処理をしたのが、一番、最も適切かなと思うんですけども、それはやらなかったんですか。やらなかったら、その理由を教えてください。

【片山参事】

そこは回答に書いてあるとおりです。

【山崎専任者】

はい？

【片山参事】

回答に書いてあるとおりで、ございます。

【山崎専任者】

えっ？

【小川専任者】

回答どこですか。

【片山参事】

まあ、回答をお示ししてますよね。えーと、小平市は政策的に、容リプラの減量を進める計画ですと。多摩地域では容器包装プラスチックの原単位については17から60グラムまでの幅がありますと。組成分析結果はほぼ平均値であり、妥当性がある数字だと考えています。というのが回答です。

【山崎専任者】

ですから、私が質問したのは、あの、民間委託や何かを使って、実際に処理した、処理する方法を、と、比較は、あの、検討はしなかったんですかということです。

【片山参事】

それはしてません。

【山崎専任者】

それはなぜですか。

【片山参事】

ですから、政策的にっていう、このご回答のとおりです。



【山崎専任者】

いや、そうじゃない。そうじゃない、いきなり飛ばさないで。まあいいです。やらなかったんですよね、結局。

【小川専任者】

あの、政治的な発言はやめてください。

【邑上会長】

邑上です。あの、まあ、今ここも、あれなんですけども、ちょっとそれはここに書いてあるとおりで、あの、ちょっと合わないですけども、あの、最も適切だと考えているので、ほかのものとの比較は行ってないっていう、以上の回答はない。理由はだから、最も適切と考えているからしか、多分言いようがないんだとは思いますが、その、それはそれで、いいというか、まあよしとして、えーと、質問でいうと、例えば予測方法について聞いてるので、やっぱりその数値で答えるのはちょっと違うのかなと思うので、やっぱり回答がちょっとかみ合わないかなとは、今の、例えば「小平市は」というところから、「数値だと考えています」という文面は、ちょっとその、予測方法の話は今、しているのであって、予測値が適切かという質問じゃないので、やっぱり、質問と回答はかみ合っていないと思います。

ですので、まあその、上が書いてある回答で、えー、ほかの予測方法による予測は行ってない。で、何でもかといったら、最も、その、組織、あ、組成分析が最も適切と考えているからという、以上はないと思うので、まあここは、これ以上、仕方ないかなと思いますので、はい。次に行ったらどうかなと。

【山崎専任者】

はい。じゃあ、その次というか、その、ここに書いてある、こう、組成分析結果は、多摩地域での、おー、多摩、19市ですかね、分別収集をしている。その平均値に近いから、あー、妥当だろうと。ということなんで、その、説明をしてもらえますか。あの、平成28年の6月に、あの、今日配られた資料と同じような資料で、説明されてるんですね。で、まあ、その説明内容は多分、片山さんのほうで説明しましたので、覚えてると思いますけども、そのない、あー、説明内容を踏まえて、もう一度説明をお願いしたいと思います。

【片山参事】

あの、まあ再配付資料になると思いますけども、えー、29年4月8日地域連絡協議会資料って、またあの、同じ資料になりますけど、提出していると思います。この裏面を見ていただきますとですね。

【伊藤課長】

えーと、今日お配りしました、えーと、小平市の容器包装プラスチックの目標資源化量の根拠と組成分析のサンプル量という、この、A4の、おもて裏の、資料です。よろしいですか。こちらの資料を見ていただければと思います。

【片山参事】

その裏面なんですけれども、えー、まああの、都道府県名、ちい、地方公共団体コードと、まあ余計なものが入っておりますけれども、市区町村名のところで、多摩の市町村名が入っています。で、人口、その右側が容器包装プラスチック、うー、でございます、えー、容器包装プラスチックの原単位については、えー、一番み、右側のグラムに、比という、この1列でございます、えー、ざっと見ますと、まあ小平市は硬質しかやってませんから7ですけども、えー、一番低いのが、えー、下から2番目、多摩市ですかね、えー、17。で、一番高いのが、65、国分寺市ですか。えー、そんな形の範囲に、の原単位になっているという状況です。

で、24年度の小平市の人口に31グラムを乗じると、年間は2,106トンということになりまして、まあ、計画における平成35年度の目標値は2,237トンですので、おおむね、まあ一致するというような値でございます。

えー、なおあの、原単位、えー、2,227トンで計算しますと32.75という形になります。

それから、2としてですね、分別、組成分析の精度についてなんですけども、これは、もちろんあの、資料はたくさんとってですね、なおかつ、回数をたくさんやればいいんですが、えー、まあ、分析のサンプル量については、例えば布類や剪定枝などの大量に排出する家庭があると数値が変わってきますし、えー、統計的に何トン分析すれば誤差が何パーセントかという数字は、えー、数値ではございませんのでできま、出ていませんということ、これはまあ、コンサルタントからの聞き取りですけども、えー、こういう状況でございます。

以上でよろしいでしょうか。

【山崎専任者】

ありがとうございます。あの、質問なんですけども、今の資料を使って、えー、説明したのは、まあ31.1でしたっけ、多摩の平均値が。それに対して、えー、近いから、あー、平成35年の原単位、1人当たりの排出量の32.75、小平市が。で、近いから、その、1回目の組成分析を、から算出された、あー、小平市が燃やしているプラ量の潜在量、プラの潜在量、そこの潜在量から50%を移行したものの数値が、要するに実施計画の数値ですね、が、正しいという説明ですかね、これで。で、いいわけですか。

【片山参事】

まあ、正しいという数字はなかなか難しいですけど、一番確からしいと考えております。

【山崎専任者】

うん。そうですね。ですから、まあ、そうすると、組成分析と、えー、50%の移行量と、あと、この、多摩19市の、おー、平均値。これが、全て、正しい。それぞれのね、値が。それで初めてこの、方程式っていうか、あの、実施計画の数値が正しいんだよということになりますよね。ということでいいですか。

【片山参事】

そうですね。

【山崎専任者】

そうですね。じゃあ、ちょっと、その、まず、組成分析のほうから。えー、精度っていうんですかね。組成分析の精度についてちょっと、お聞きしたいんですけども。今日、岡村部長、お休みみたいなので、岡村部長にちょっと聞きたかったんですけども、まあ、かわりに、課長がいらっしゃるんで、ぜひお願いしたいんですけども、えー、28年、平成28年5月の協議会で、えー、岡村部長が、あー、その、せせいぶ、あの、組成分析、小平市がやった組成分析について、えー、発言されています。内容として、してはですね、「申し上げたいのは我々の組成分析は、小平市のごみの現状が今、どうなっていて、リサイクルですね、そのごみ質がどうなっているということから含めて、リサイクル、リサイクル率がどうなっているのかということを実況把握する、するためにやったものですので、施設をつくるためのデータとして使うということをつくったものでないということ、まずそれは申し上げておきます」と発言されています。これはいいですよ。議事録に書いてある。もう1点ですね、えー、「最後に50%ですが——あ、移行率のことでですね——これについては明確な根拠ということではなくて、軟質プラスチックがほとんど今は焼却されています」という発言をされているんですね。

で、こういう発言をされてて、で、その、組成分析の1回目の組成分析を使って、50%の移行率を計算し、をかけて、その、小平市の、プラ、プラ予測をするっていう提案があったわけですよ、ベースデータで。

そういう説明を受けたときに、なぜ反対っていうか疑問を持たなかったのかどうかね。要は自分、これで使う、使うデータじゃないんだよ、小平市のごみの、ごみ質の現状を把握するためだよって言い切っているわけです。それと、移行率50%も全く根拠がないんだよ、ただ、こうなればいいなっていうようなことで発言されている。それに対して、組合のほうから多分説明されたと思うんですけども、おー、それで、これで使っちゃおかしいんじゃないのかっていう話は出

なかったんですかね。

【白倉課長】

その、今の話は、組合のほうから、我々がつく、我々がつくった一般廃棄物処理基本計画の推計の出し方に対して、えー、おかしいんじゃないかって質問があったかどうか。そういうとこなんですかね。

あの、我々のその一般、あ、廃棄物処理基本計画の考え方としては、あの部長が説明したように、あの、将来の計画を考える上で、移行量50%、それはあの、うち、私どものほうで、すぐに分別変更をしたり、例えば有料化になっていったときに、いきなり70、80は行かないだろうし、あとまあ、組成分析ということもありますので、先ほどお話があったように確かに50%、ぐらいは移行するだろうと。そういうのを、えーと、計画の段階で、まあ我々のコンサルさんと、えーと、相談しながら、まあ妥当性を、見ていったと。その数字の中では、先ほどここに提示されたような、ものを当時つくるときには、あの、当時の、えーと、各市の状況なんかも、ある程度見ながらですね、数字的にはまあ、ほぼ組成分析の結果と見ても、あの、移行量と見ても、まあ、妥当性はあるだろうっていうことでつくったものですので、市の計画としては、その、移行に関しては、まあ、妥当性があるという。という形で50%移行量というのは我々のほうがつくって公表していますので、まあそれに対して、まあ、組合さんのほうで、つくった際にですね、我々のその、計画を見ても、まあ妥当だろうと。それを判断したものだと思います。

【山崎専任者】

えー、実際にその、この資料ですけれども、いつぐらいに。小平市さんがつくったんですよ。

【白倉課長】

これは違います。これはうちじゃない。組合がつくった。

【片山参事】

うん。うちじゃないですか。

【山崎専任者】

えっ。組合ですか。さっき、小平市さんがつくった資料だって言ってませんか？

【片山参事】

うちでつくったと思います。

【白倉課長】

それはうち、うちでつくって渡していません。この資料は。はい。

【山崎専任者】

あ、これですか。

【白倉課長】

あ、私がつくった資料は、こ、これですね。

【山崎専任者】

はいはい、それはわかったんですけど。

【白倉課長】

これだけにつくらせていただきましたけど、この資料自体は、小平からつくって出したものではないです。

【山崎専任者】

でも、前月だか2月のあれで、小平市さんから、ちょっと小平市さんからデータをいただいってというような発言をしてますよ、片山さん。

【片山参事】

あの、作成、まあ、資料自体作成したのは組合だと思います。ただ、情報はですね、こういうのもあるよと。多摩の平均なんか見てみたらどう、というような話は、小平さんから助言はいただいたというような形だと思います。

【山崎専任者】

資料をつくったのは組合。で、こういう情報があるよと言ったのは小平市さん。

【白倉課長】

そうですね。計画じ……。

【山崎専任者】

それ、情報をあげたのはいつぐらいなんですか。

【白倉課長】

計画をつくる段階でやってたので……。

【山崎専任者】

計画っていうのは。

【白倉課長】

えーと、あ、違う、この情報をあげたのは、いつだろう。あ、以前、片山参事が、ここにぱつと映したとき。

【山崎専任者】

はい。28年6月ですね。

【白倉課長】

ありましたね。あのころには、情報をあげています。

【山崎専任者】

あ、そのくらいですか。

【白倉課長】

はい。

【山崎専任者】

じゃあ、その前にあげた覚えはないんですね。

【白倉課長】

そこではあげてないですね。あの、こちらの、話がずっと進んでいましたから。

【山崎専任者】

わかりました。それはあれですね。じゃあこれについては、28年の6月で、あの、プロジェクトだけで報告したとき、説明した、ちょっと前ぐらいに、情報としてあげたというぐらいですかね。

【白倉課長】

ちょっと時期は。わからないですけど。

【山崎専任者】

まあ、まあ、そんなに、大きくは狂ってない。

【白倉課長】

あの、多分、山崎さんが、見たときが、多分、情報を私のほうでも渡した時期ですね。

【山崎専任者】

あげた。はい、ありがとうございます。

それで、えー、まあ、もう、何ていうんですかね。で、私、この資料、まあ、今の説明を聞いてね、一番疑問に思ったのは、組成分析の精度なんです。で、えー、まあ、今の説明だと、組成分析が正しくて、50%が正しくて、で、多摩19市と比較すると、合ってるから正しいんだよって言うんだけど、個々に見ると、組成分析って……電池切れ。電池切れ。

組成分析って、ばらつきってあるんですかね。どうですか。

【片山参事】

組成分析のばらつきですか。

【山崎専任者】

はい。

【片山参事】

私どもはあの、資源化を目標に、まあ、結論からいうとばらつきはあります。

【山崎専任者】

そうですね。

【片山参事】

で、私どものほうの分析はですね、焼却炉の維持管理のための分析ですから……。

【山崎専任者】

いや、それじゃないです。

【片山参事】

えー、分析方法は違いますけれども、いずれにしましても、ばらつきはあります。はい。

【山崎専任者】

で、あの、その、ばらつきの大きいね、組成分析を使ったわけですが、しかも、1回だけやった組成分析でね。そうですね。それでいいですよ。

【片山参事】

そうです。

【山崎専任者】

それで、じゃあその組成、1回目の組成分析って、えー、普通、50回100回ってそのデータをとると、まあ正規分布、こう、山みたいな分布になるんですけども、その1回目の組成分析の結果っていうのは、その、正規分布の、どこら辺に当たるんですか。要は、ばらつきがあるっていうんだから、こういう正規分布のどこかにあるわけですよ。どこら辺ですか。

【片山参事】

それは複数データをとってないので、えー、わかりませんよね。

【山崎専任者】

そうですね。ということは、どこだかわからない。平均値だかどうかもわからないし、下限かどうかも上限かどうかもわからないやつで予測しちゃってるわけですよ。そうですね。

【片山参事】

また、あの、あれですけど、だから1回だけで心配なので、多摩地域と……。

【山崎専任者】

いや、そうじゃなくて。

【片山参事】

比較をしたということ。

【山崎専任者】

私は組成分析の話をしている。

【片山参事】

おっしゃるとおりですよ。

【山崎専任者】

トータルじゃなくて……。

【小川専任者】

そこ、そこで逃げないでよ。

【山崎専任者】

組成分析はばらつきがあるっていう話だったんで、じゃあそのばらつきは、今回1回目のやつは、平均値なのか下限値なのか上限値なのか、教えてくださいと言ってるんです。だから、その数値がね、もし、下限値だった、上限値だったとしたら、当然、多摩地域と、の平均値と比較したって、数値合わないんじゃないですか。だから、それが証明できなかつたら、この、3つの、数値を合わせた方程式は成り立たないんですよ。

【小川専任者】

そうですね。科学的な。

【山崎専任者】

だから、どれですか。2回目をやったときに、約、潜在量が1,000トンふえました。で、それが、上限になるのか、平均値になるのかもわからないわけでしょう。

【小川専任者】

統計学的にも全然違うわけね。

【山崎専任者】

だからどれを。1回目は、1回目で計算してるんだから、1回目がどこだっていうことがはっきりわかんなかったら、計算できないじゃないですか。だからもっ、もっと何回もやれば、数値が変わってくる、もっと、2回目よりもっと大きい数値が出てくる。そういう話ですよ。

だから、これはもう、残念、残念でしょうけども、あの、きちっと、あの、民間委託や何かを使って、しっかりとした予測をしないと無理です。

【白倉課長】

あの、すいません、あの、組成分析に関しては、あの、基本的に、あの、まあごみ質の中身を見るということで、推計を出すために使うという手法で、あの、我々のほうの、こういう、ごみ処理の中では一般的に使われているものです。で、それを、経年的にずっととっていくというの、あの、基本的にはやっていない。あの、計画をつくる段階のときに見て、そこでどのぐらいごみ質が変わっているかとか、それを踏まえた上で次の計画をつくっている、ということになり



ます。

で、あの、あの、山崎さんがおっしゃっている中で、確かに組成分析だけでは非常に、信頼は低いよねと。というのは、あの、ごみ質変わりますから、あります。ただそれに合わせて、あの、他市では、既に容リプラについては、リサイクルをやっていますので、その実績というのは、ここで、かい、書いてある、数字で、まあ、固いものです。だから、我々が民間委託をしなくても、各市の、えーと、1人当たりの排出量から見ていけば、えー、ほぼ、まあ、実際の数字ですから、これだけ出ているんだというのはわかりますよね。

そういうことを考えると、えーと、今回我々のほうでつくったせせいぶ、組成分析の結果は、えー、ここに書かれているように、まあ小平31グラム、んーと、31グラムでいいんですかね、あの、他市の、平均と、ほぼ同じ。ということは大体中庸。真ん中ぐらい。ていうふうな考え方はできるんじゃないかと思います。

**【山崎専任者】**

で、まあ、1回目がそうだとしても、2回目は、全く違うんじゃないですか。そうすると、その、多摩19市の平均値と合わないですよ。さん、平成35年の計算をしますと、40.1まで上がっちゃうんですよ、1人当たり。1日の、排出量が。そうすると、31という、9も、1人当たりですよ、1日、変わってきちゃう。そうすると、その方程式、合わないですよ。

だからそれだけばらつくってということがわかっているものを使って、1回の組成分析結果だけを使って、予測するというのは、やっぱり、まあもともと組成分析ってばらつくっていうものから、予測をすることに使うことはできないだろうと、私はもう思ってるんです。

**【小川専任者】**

そうですね。

**【山崎専任者】**

ばらつくのわかってるって皆さん言ってるんだから。行政側の人は。だから、それをなぜ使うかですよ。

**【片山参事】**

同じ話になりますけれども、あの、1回のデータでございますけれども、それだけでは、これだと。これが正しいんだと。最も確からしいんだということがいえないので比較を行って、えー、導いてるわけですよ。

**【山崎専任者】**

ですから、2回目をやってるじゃないですか。2回目をやって、そんなに、数字が変わっちゃってるじゃないですか。

【片山参事】

それは、変わってますね、はい。

【山崎専任者】

ねえ。そうすると、信頼性って全くないじゃないですか。で、2回目の、を、もしつかつ、ここに今書いてありますけれども、2回目でもちゃんと採用しますよって書いてあるじゃないですか。2回目使うと、その、処理量が全く変わるわけですよ。500トンふえちゃうわけですから。そうすると、今、計画している、その、処理量。これ、あの、施設の規模は、足らなくなっちゃうんですよ。

【片山参事】

えーと、施設規模に換算、まあ、あの、してみましたけれども、二、三トン。二、三トンぐらい、えー、施設規模が大きくなりますね。

【山崎専任者】

そうですね。はい。

【片山参事】

はい。それは事実です。

【山崎専任者】

ですから、その、入らないじゃない。処理し切れないじゃないですか。一番下に書いてありますけれども。

【片山参事】

えー、ですけど、施設規模につけば、施設規模につきましては、一番ピークの年度で設定しておりますし、ピットにたくわえることもできます。それから、えー、月変動係数も見込んでます。えー、そういうことで、処理は可能です。で、何よりも大前提はですね、減っていくことなんですよ。

【山崎専任者】

で、13/13に書いてありますけども、処理能力が1日17トンに設定して、変動率を入れてね、で、4,250トンだと。いうまではできますよっていうことを書いてありますけれども、実際に、500トンふえると、4,290何トンまで行っちゃうんですよ。単純にですよ。250日で、掛けると。それに変動率を掛けると4,800トンまで行っちゃうんです。これじゃ処理できないじゃないですか。

【片山参事】

あの、まず、前提としてはですね、ピークを捉えているということですね。施設規模は、最も、

あの、資源が多く出るであろう年度をピークとして計算しているということがまず1つ。それから、今ここには書いてごさいませんがさらに、これはあまりやりたくないのを書いてないんですけども、えーと、5時間運転で施設容量を出しています。

【山崎専任者】

あの、そういう話しているわけじゃないでしょう。施設の規模を決めてるんですよ。

【片山参事】

ですから、施設の規模は……。

【山崎専任者】

ここに4,250って書いてあるじゃないですか。

【片山参事】

話、ちょっと最後まで聞いてくださいよ。施設規模は、えー、5時間運転で設定をしていますので、残業すれば8時間まで運転できるわけですよ。

【山崎専任者】

そういう話じゃないんですよ。

【森口専任者】

そういう話じゃないでしょう。

【片山参事】

違います？

【森口専任者】

5時間だからやらせてくれって頼んで、規模が足なくなったら8時間やればいっておかしいでしょう。

【片山参事】

いや、そんなことはないですよ。あの、私どもは、えー、状況によりましては8時間運転まで限度に、えー、あの、延長運転することがあるということで、えー、発注してますんで、それは皆さんに説明はしてるはずですよ。

【森口専任者】

5時間だからやらせてくださいっていうんじゃないんですか。5時間ですって今までも言ってますよね。5時間稼働ですって。

【片山参事】

ですから5時間運転で、5時間稼働で設定をしますけれども、ピー、ピーク、ですからごみ量が、例えば故障が長引いてしまったりっていうときのために、えー、残業しますよと。

【森口専任者】

それは故障が長引いたときですよ。最初から、ピットの数足りないときじゃないですよ。どこをどうやったらそういう。

【小川専任者】

一貫して5時間で言ってますよ。

【片山参事】

5時間って言っていますよ。

【小川専任者】

書いてあるし。

【片山参事】

施設能力は5時間で設定をしていますと。

【森口専任者】

そういうことで環境影響調査もしてるんでしょう。

【片山参事】

ただし、ただし、8時までの、限度に延長する、する、運転をすることがありますよという形で、ご説明はしています。

【小川専任者】

そういう、あの、適当なこと言わないでよ。

【山崎専任者】

今言ってるのは施設の規模なんです。ですから、4,250トンというのはマックスでしょう。あの、変動率を加味して。ですよ。で、四千、500トンふえると、4,294トン。じゃあ、いきなりね、あの、2日間で、どんどんはい、あの、多い分が入ってきちゃったら、もう、ピットいっぱいになっちゃいますよね。そういう、処理能力っていう計算じゃないですか。何でもかんでもやればできるからこれでいいんだっていう、今の説明だとおかしいですよ。

【片山参事】

ですから、過大施設になっても困りますし、もちろん、過小施設ではもっと困るわけですから、そういう面で、5時間運転で、ピーク時で、えー、設計させていただいていると。で、なおかつ、にげ、逃げっていう言い方がいいかどうかわかりませんが、えー、想定外のものがあつた場合についてはですね、8時を限度に、延長させ、延長運転をさせていただくということで、ここまで一貫してそれで説明してますし、それで環境影響調査もやらせていただいています。

【山崎専任者】

ですから、4,250がピーク時であっても、あの、変動率、掛けなくても、その、4,250を超えちゃうわけですよ。で、さらに、変動率を掛けると、4,800トンまで行っちゃうんです。そうすると、幾らですか。550トン。

【小川専任者】

559トン。

【山崎専任者】

減ります、あの、足んなくなりますよね。それを何。あの、稼働時間を延長してやるっていうこと？

【片山参事】

そうです。

【山崎専任者】

えっ。初めからやるっていうこと、じゃあ。

【片山参事】

初めからやるっていうことは考えてないですよ、ですから。

【山崎専任者】

だって、2回目の計算でいくと、4,800トンになっちゃうんですから、すると施設規模……。

【片山参事】

あの、お言葉ですけども、2回目を使いますけれども、2回データがあれば、一般的には平均をしますよね。

【山崎専任者】

平均使わないですよ。高いほうを使うんですよ。

【片山参事】

加重平均使いますよね。一般的には加重平均を使いますよね。

【小川専任者】

統計学っていうのはそういうことを考えないでしょう。2回という。偶然のこともあるしね。

【片山参事】

なので、2回目の調査結果が、今、山崎さんがおっしゃっているのは、1回目して、私ども、1回目で設定してますから、2回目の設定結果、と、同じ結果が1回目に出たらどうなるのかっていうことでおっしゃってるわけですよ。えー。ですから、そういう場合には、あの、8時間稼働ですから、60、60%アップ。えー、まで、耐えられますと。いうお答えになってしまい

ます。

【小川専任者】

全然、納得いきません、それは。

【山崎専任者】

いや、それはおかしいよね。

【小川専任者】

普通、統計学といえ、何回か、5回とか100回やって、それで数字を出すのが、あの、根拠のある、数字じゃないですか。それを1回2回やって、それで、これが妥当な数字だというのは、それは誰が見ても納得しませんよ。

【森口専任者】

はい。森口です。えーと、施設の、規模というのは、あの、入ってくる量で、上流になるわけですよ。受け入れる側の。で、焼却炉に関しては、ここがなければ上流が整備されないと言いながら、こんな上流の整備の仕方、施設規模を、あやふやなまま、ここを進めていくこと自体、おかしくないですか。

【山崎専任者】

そういうことですよ。

【森口専任者】

そしてまた、あの、こちらのほうのごみは、容量が、プラスチックは、3倍にもかさばるから、ってことを言ってるんですから、かさばる物に対して、それだけ甘い見方をして、トン数だけの問題じゃないと思いますし。焼却炉に対して、それだけ、上流上流って言うのであれば、こちらの上流もきっちり整備してくださいよ。

【坂本代表者】

えーと、坂本です。あの、つけ加えて申し上げますと、あの、私、記憶が、あの、ちょっと不確かかもしれませんが、国土交通省の、こういう廃プラ処理施設の、あの、こういう工業地域であっても、1日の、処理量が、こういう住宅地で、あの、住宅、まあ工業地域でもあっても、5トン以上は、多分指針で、禁止されてるんじゃないですかね。これ、やってはいけないと。こういう住宅地、ああ、ここは該当するんだなって私、あの、国交省の指針を見て、そう感じたんですけれども、今おっしゃったようなことがですね、あの、通用すればですよ、あの、処理できなかったから、えーと、今日は8時間、あしたは5時間、そういうフレキシブルな態勢が組めるんですか、実際に。そういうことは、あり得るんですか。あり得ないでしょう。

実際ね、10年ほど前には、ここで、あの、要するに消防法違反になったのは、要するに、あ

の、余計に、蓄積していたから、それが消防法違反で、で、消防法が、あの、建築審査会に問い合わせたところ、不法建築であったということで、今、リース契約して、倉庫を建てたわけですよ、もう10年近くになりますけれども。そういう経緯があるわけなんです。実際、つくってはならないところに、まあ、そのときは工場で、な、野っ原だったところに、そういうのをつくったのはいいんですけれども、今、時代はどんどんどんどん変わって、もう十数年もか、変わってるわけですので、あり得ない話ですよ。

だからその、国交省の指針も、よく読んでいてください。多分ね、違反するんじゃないかな。法令違反になるんじゃないかなと思います。

【白倉課長】

あの、今、坂本さんが言った、日量5トン以上のところは、あの、日量5トン以上の施設をつくる場合は、あの、都市計画決定が必要と。

【坂本代表者】

ああ、そうです。それもあります。

【白倉課長】

という、そう、それです。それが必要なので、5トン以下であれば必要ない。で、今回我々がつくる施設は、当然5トン以上なので、それはちゃんと、法律に基づいて、えー、都市計画決定をした上でつくっていく、というものですので、多分その5トン以上だと処理しちゃいけないとか、そういうところではない、話ですね。

【坂本代表者】

はい。まあ、おっしゃったとおりなんですけれども、多分そこで読んだと思います。だから5トン以上というのを、こういうところで、あの、処理しようとする自体が、だから、都市計画決定というのはものすごく大事なんです。や、要するに、市の、その、姿を、決定するものが都市計画なんです。それが、今、工業地域とか、実態のない工業地域になってるからおかしいんで、そもそもそこに建てようとする自体が、時代錯誤も甚だしいから、そういう結果になってるんです。

【邑上会長】

はい、邑上です。えーと、ちょっとやりとりがですね、あの、やっぱり平行線というかですね、えー、かみ合わないんですが、じゃあ山崎さんのほうで、お話ししているのは、えー、組成分析という、その、結果がばらつくようなものを、1回だけで、処理する量を決めていることが問題ですよっていう指摘なんです。で、それに対して、いいんですっていうふうになっているので、えー、なかなか難しいかなと。

【山崎専任者】

かみ合わないよな。

【小川専任者】

難しいってのはどうなの、ふざけた話だよ。

【邑上会長】

まあ、普通に考えても、その、何かを決めるといふか、その、検討するのに、1回だけの結果で決めるといふのは、ちょっと考えにくいかなとは思いますが、まあそれが多分普通の捉え方かなと思うので、今みたいな説明では、多分誰も、「あ、そうだね」と言えないんじゃないかと思うんですよね。

で、ただまあ、これを使ってるので、まあちょっと仕方ないとしてですね。あとその後で……あ、ごめんなさい、なので、そこは、今のやりとりでは、もう絶対理解できない。あの、「ああそうだね」って腹落ちしない部分ですね。

で、あとはその、あと山崎さんのほうで言われてる、まあ最後のページのある、その量、4,250トンというものが、まあ4,800幾つになるという、まあ、可能性があるという話だと思っただけですけど、もちろんもっとふえる可能性もあるんですよね。あの、組成分析の結果、2回だけ見て、その1,000トン、もともとの量が1,000トンふえるという話なので、もしかしたら2倍になるという可能性だってないとはいえないですよ。わからないってことなので。そうしたときに、まあ少なくともじゃあよん、4,250が4,800とかになるとしたときに、えー、今回行っている環境影響調査については、どうなるのかなというふうに今思っていて、車が通る、まあ量とかですね、あとは時間とか、そういう条件で、えー、音とか、まあ臭気なり何なり、いろいろ、やったかと思うんですよ。その、その条件が全然違う状態の環境影響調査っていうのは、その都市、都市計画決定ですかね、そこに、何か影響を及ぼさないんですかね。その、低い条件でやって、調査した結果、大丈夫ですっていうふうにして、実はその2倍でしたとかいう話に、仮にですよ、2倍はちょっと言い過ぎかもしれませんが、えー、もっと、もっと環境が悪化するような条件でしたというのが事実だとしたときに、それは、何も問われないものなんですか。あの、やってしまったもの勝ちっていうことなんですかね。ちょっとそこが気になります。1つはあの、交通量がふえるっていう話があったりしましたので、えー、まあ排気ガスの問題とか、その、まあ大型のトラックが走るでしょうから、振動等もあると思いますけれども、その影響っていうのは、条件が変わったこと、か、変わってしまうことが仮にあったとしたときに、何もそれは、こう、問題にならないことなんですか。ちょっとそこを知りたいんですけど。教えてください。



### 【片山参事】

えーと、さっき、先ほどあの、延長運転のお話は、えー、お話ししたとおりですけども、著しく、例えばあの、山崎さんがおっしゃるとおりですね、2回目の、3回目やってみたらもっとふえちゃうかもしれない。そういうことになってくると、やっぱり生活環境影響調査上もですね、やっぱり、問題が出てくるのかなというふうには思います。ただ、現状で考えられる、最も悪条件側で、今、設計をしていますので、えー、現状の、その8時間延長運転の範囲内では、影響はないというふうに考えていますけど。

例えばあの、車両についてもですね、今、えー、びん・缶、まあもう、既にプラスチックはやってませんが、びん・缶・ペットボトルをやっている時代の、あの車両にさらに上乗せして計算していますので、ふだん、ふだんといっても、びん・缶が入ってこないわけですから、びん・缶の分を引かなくちゃいけないんですけど、引かないで上乗せして、車両台数も設定をしていますので、そういう面での影響はないかと思えますけども、えー、今、会長心配されてるように、著しい変化があればですね、それはまた生活環境影響調査のやり直しをすとかですね、そういうことは必要になってくるんじゃないかなと思います。

### 【邑上会長】

はい、ありがとうございます。

えーと、やり直しといってもですね、今はこの状態で、あの、少なくとも衛生組合議会などは、進んでしまっているわけですよ。この内容に多分、疑問を持った議員が多分ほぼいない状態。まあちょっと、反対、反対っていうか、ちょっと待ってと言っている人は別だとしてもですね、えー、賛成してる人たちっていうのは、まあ何も疑問を挟んでない状態だと思いますので、えー、今の状況に至って、まあ進んでるんだと思うんですけども、これが、ここの部分が追及されない状態で、進んでしまったら、環境影響調査のやり直しっていうのはあり得ないですよ。なので、ちょっとそこはちょっとわからないんですけど。

仮にあの、4,250がまあ4,800とかになって、例えば仮に2割ぐらいふえるって状況になったときには、単純に考えて車も2割ふえたりとかするのかなと思うんですね。で、それはその、できて、本当に動いて、実際はこうでしたっていうときに初めてわかるんであって、という状況のときに環境影響調査をやり直すとかですね、ああやっぱりちょっと足りなかったから、といって施設を、まあ増強しないで運転時間を延ばすと言ってましたけど、やるということで済むんですかね。だから、環境影響調査をやり直すっていうことは、今の段階でちょっとわからない、あり得ないのかなと思うんですけど。

なので、あの、まあこれ、前々からその、お金の話もそうなんですけれども、えーと、まあ、

ちょっとこの時点でやり、やり直すのは難しいと思いますが、この調査自体を、やっぱりきっちりやらないといけないのかなと思うんですよね。で、まあその、えーと、組成分析を、やるのであれば、多分回数、ですね、季節なり地域なり含めて回数をふやして、より確からしい値にしていくとか、または違ったやり方、まあ、提案されてるのは、実際民間に、まあ一定期間出して、ちゃんと量を確認したらどうだっていう話が出てますけども、そういうその、前提の数字をですね、その、ちゃんと確からしい数字にするっていうことが必要なんじゃないかと思うのが、多分普通の考えだと思うんです。で、それに対して、いや、てき、あの、これが最も適切ですとか、1回目にやっただけだけどこれでいいんです、とかって言うので、それはおかしいでしょう、というやりとりになって、まあかみ合わない状態がずっと続いているかと思うので、困ったというのが、正直なところですね。

実際その、どうなんですか。環境影響調査やり直すなんていう状況に、今の時点でなれ、なるんですかね。

**【白倉課長】**

すいません、ちょっと、話、戻っちゃう、あの、処理量の、全体量の、やはり組成分析っていうところで、ちょっとこの資料を見ますと、先ほど、山崎さんがおっしゃられました、例えば東大和市と武蔵村山市の比較してるのか、って話がありまして、この資料でいきますと、東大和市さんは、あの、1日当たり1人の、1人当たりの量が30グラム。で、えー、武蔵村山市さんは26グラム。で、これで、小平市のほうは、えー、32.75グラムですかね。そういうことを考えると、小平市の、出してる数字というのは、ほかの2市より非常に高い数字。と今回捉えて、えーと、推計量をとっている。というところを考えていきますと、あの、あの、前回の、昨年やった組成分析、では相当大きな数字が出てきているかもしれませんが、現状の、各市の、その状況から見っていくと、あの、推計自体はそんな間違っただけのものではない。ということは、あの、こういう各市の数字から見ても、私は、妥当性はあるというふうには、いえると思います。ただ、オーバーした場合だけは、それは確かに見えません。あの、どのぐらいふえちゃうかっていうのは確かにわからないですけども、通常の見方からすれば、まあ、妥当性のある数字。をしっかりと捉えているということしか、我々のほうとしてはいえない。という状況です。

**【山崎専任者】**

すいません、あの、今、組成分析の信頼性と、50%の移行率の信頼性がおかしいんじゃないのっていう話になってます。入ってない？ すいません。あ。入ってます？

**【小川専任者】**

入ってない。

### 【山崎専任者】

えーとですね、えー、組成分析の信頼性がないよと。あと、50%の移行率というのも根拠がないよという話ですよ。で、今、それでおかしいんじゃないのっていう話になってるんですけども、実際にその、今、あの、小平の課長が言われた、多摩19市の平均値、これについてまだいっ、全然、触れてないんですけども、これについてもね、あの、この資料を見る、回答を見ると、あの、有料化の、あれは、何ていうんですかね。有料化による、うー、削減効果は低いって書いてあるだけで、何も、答えになってないんですよ。結局、有料化してるのは、何市ありますか。っていうような、こういう資料を出してますけれども、これを全然、計算、反映した回答じゃないんですよ。

だからそれぞれがね、19市の中で、資料をまとめましたけど平成24年度で、えー、有料化してないところは19分の7市。がやってない。で、その、予測、うー、1回の組成分析で、50%の移行率を、で計算したものは、あの、将来の予測ですよ。要するに、あの、ごみ有料化をしたり、そういったことを考慮した形での予測ですよ。で、まあ大きいのは、東大和市がやってる、その、汚れたプラの、分別基準。他市の一般廃棄物処理基本計画を見ると、ほとんどの市が、きれいに水で洗って、それでプラに入れてくださいって書いてあるんですけども、東大和市はそういったことをしてません。洗わなくていいよ、洗剤なんか使わなくていいよ。で、落っこってくるものできれいになったものだけは容器プラに入れてください。それ以外は、可燃物に入れてください。それをね、そういったものを全部、考慮しなくちゃいけないわけですよ。その、19市のやつっていうのは。

と、当然、プラの量が、他の19、18市は、例えば汚れの取り扱いについても、今までこう、出たものが、減ってくるわけですよ。要は、東大和と同じ基準で分別した場合ですよ。今までは、きれいに洗って、で、容器プラに入れてたけども、今度は洗わないで、可燃物に出すわけです。すると当然、そういった、数値が変わってくるじゃないですか。それと有料化もそうです。有料化、19市中7市やってないので、じゃあその7市が全部やったらどうなるの。東大和でいくと、3%ぐらいですかね、容器プラ。6パー、5、6%減ったんですけど。3、4%は減っているわけです。

で、今ここに書いてある回答は、ほとんど変化ないって書いてある。有料化による容器包装プラスチックについては、有料化による削減効果はほ、低いと。私が聞いている……。

### 【邑上会長】

どこですか。

【山崎専任者】

えーと、7/13です。

で、えー、その次の8/13でも、有料化による削減効果はどの程度と考えていますかって書いてある。要するに、19分の7がまだやってないよ、で、この人たちが、あー、有料化やったら、どのくらい下がるんですか。っていう試算をするとどうですかって聞いているんですけど、えー、まあこれ、2市の、小平と武蔵村山、のだけ計算してますけども、私が言ってるのは19市の中の、おー、有料化による削減効果ですから、それを試算して、さらに汚れ品は、じゅう、他の18市が、東大和と同じにして、ときに、どれだけ下がるのっていうことを聞いているわけです。それで初めて、その組成分、1回目の組成分析と、50%の移行率で計算したものが、合ってるのかどうかっていう比較もしなくちゃいけないじゃないですか。

だから、それができてないですよ。要するに、シミュレーションできてないんですから、じゃあ実際幾つになるのかってわからないわけですよ。そうですね。将来の予測、小平市も武蔵村山市も東大和市も、平成31年、まあ、東大和はもうやってますけれども、小平も武蔵村山も、平成31年度から、有料、ごみの有料化をするわけですよ。で、その数値を予測するわけですから、その条件で、他の16市も、同じようにしなくちゃ、比較にならないじゃないですか。こっちはしてない、こっちはしてる。で、どうやってやるんですか。どうやって比較するんですか。それをだせん、出さないんだったらね、その、比較になんないですよ。

【邑上会長】

ちょっといいですか。邑上です。あの、山崎さんは、この内容をかなりもう把握し過ぎてるといふか、勉強してるので、だーっといってるんですけど、多分、なんかついていけない感じがしまして。で、で、私なりの理解なんですけど、1つは、この、表ですね、この表に出てきている、えー、まあプラスチックの原単位ということで右側にこう、まあ7から、60幾つで入ってますけど、この数字は、ぱっと見るとまとまってるからそのまま使えそうなんだけど、実は各市、えー、プラの、ごみを扱う状況が違いますと。

【山崎専任者】

ええ。

【邑上会長】

えー、1つは、ごみの有料化をしてるところとしてないところがあります。それなので、それによって、プラスチックの量は、えー、何ですかね、有料化したら変わるところがあります。

【山崎専任者】

減るだろうと。

【邑上会長】

減るだろうという。それと、えー、ごみの、排出基準が、排出基準というのかな、選別基準と言ったらいいんですかね、が、当然違いますと。それは先ほど言われたように、例えば東大和市は、えー、廃プラに、汚れがついてたら、まあ、わざわざ洗わないで、水とか洗剤使うのも環境負荷なので、洗わなくていいですよ、燃やしていいですよって言うところありますし、市によっては、洗剤・水を使って洗えと言っているところもありますよね。ってところがあるので、廃プラの、量が変わりますよね。というふうに、えー、条件が全然違うんだけど、こうやって見たらわかんないですね。ばっと、そのまま使っていて、表のように見えて、使ってるけど、まずその比較ができない資料でしょうと。平均とっていい資料じゃないですよって言うてるんですよ。それはいいですね。今、何となくかみ砕きましたけど、そういう、内容でいいですよ。

その内容は皆さんいいですか。

【山崎専任者】

有料化、有料化にしても、あの、プラを有料化してる場所もあるんですけども、例えば、可燃・不燃と同じ値段にしてるところもありますし、プラだけは半額っていうところもある。まあこれは、ここに書いてありますけども、半額で……。

【邑上会長】

その、見てる資料は何ですか、それは。こん、今日ある資料じゃない。

【山崎専任者】

28年10月です。もう半年前に、出した資料です。

【邑上会長】

じゃあちょっと。はい。

【山崎専任者】

で、まあ、かきます、に言いますが、24年の実績で、有料化、全体、有料化やってないのは19分の7市。だからこれが、やってないところも当然、やれば3から4%、下がってきますよね。っていう計算です。それと、有料化してるけども、えー、19分の4は、半額。で、普通、まあ、人間の心理として、安いほうだったらそっちに出しちゃおう。逆に有料化してなければプラのほうに出しちゃおう。ということですよ。だからそれはまあ、この資料にも書いてありますけども、やっぱり、そういう傾向になるんだと。だからそれがみんな同じ基準に、全て、可燃・不燃と同じような有料、有料化の金額になったときに、半額のところは、えー、減るでしょう。今まで半額だからそっちへ、不燃じゃなくてプラに入れちゃおうといったものが、同じ金額になったら、じゃあ不燃に入れましょうという、戻しましょうっていう形になるじゃないです

か、心理的に。

【邑上会長】

はい、邑上です。あの、今のは、皆さん、多分持ってない。今は持ってないと思いますので、あの、ちょっとわかりにくい。これは10月15日、去年の10月15日の資料で、山崎さんが提出、提出したものです。

【山崎専任者】

はい。

【邑上会長】

まあ、今、もう、9時なのであんまり言わないですが、こういうふうに各市が、各市と、あとは有料化を実施している、実施していないというのと、容器プラを有料化してるとかどうしてるかとかいうことを、これは山崎さんが調べたものです。ということ、これ見ながら言ってるので、我々は見えてないのでちょっとわかりにくかった、まあ、こういうふうに違います、違う状態で排出量を出してるので、一律に平均しても、今、えー、小平市さんというか、まあ、3市で考えているその、先の、時点の、条件とは違うから、比較できないですよ。ね。はい。

皆さん、内容は理解しましたか。

【小川専任者】

はい、わかりました。

【邑上会長】

ですね。はい。はい。これはそれだけです。はい。

【山崎専任者】

本来はね、こういうことを、計算して、比較する資料です。よって出すのが普通なんです。でも我々が、こう、そういうことを調べるものかな。逆に。比較する資料だから、こうこう計算しました、こういうふうに加味しました、だから正しいですよ、というふうに出してくれるんなら、我々も、わざわざ計算しないで済むし。だけど、こう、単なる平均値を出してね、これに近いからいいだろう、合ってるだろうと言われちゃっても、全部調べなくちゃいけないんです。一般廃棄物処理基本計画を全部読んでいかなくちゃ。各市の。それで、こうです。よって資料まで出して、だけど、全然、組合のほうからそういう、あれがないんじゃないですか。単純平均であって、近いからいいんじゃないの、っていうだけじゃないですか。だから結局は、あの、1回目の組成分析でやった数値っていうのは、当てにならないので、しっかりと、えー、予測を、しなくちゃいけない。という結論だと思いますよ。

【邑上会長】

はい、ありがとうございます。

あの、もう、9時過ぎましたので、まあ、今日はもう少しで終わりにするというので、一応山崎さん、幾つか質問ありましたけど、えー、まあ、今、最後の言われたことなんですが、えーと、予測量を、算出してるやり方が、適切ではないでしょうと。で、それに至るまでですね、あの、それぞれ、あの、まず、えーと、何だっけ、組成分析1回、1回で、えー、まず、もとの値を決めるのがおかしいですって話と、えー、まあ、先ほどの平均値ですね、平均値で、同じぐらだからいいでしょうっていうのが、まずその、平均値っていうのが、そのまま平均していい数字じゃないでしょうというのが調べた結果わかりましたということですね。えー。

まあ、そういうことで、あの、多分、まあ、私含めてですが、皆さんなかなか、あの、山崎さんが言ってることをなかなか理解できなかつたと思うんですけど、まあようやく、ようやく見えたとかなと思うんですけど。そういうことで、それで、おかしいでしょうって指摘してるところを、適切ですとか、いいんですと言われると、やっぱりちょっとそれは大分食い違いがあつて、えー、どうかなどは思います。

で、えーとですね、まあ、あまりまた、9時過ぎてやってもあれなので、一応大体あれですかね、今回のこの、この内容は、大体、なめられましたかね、が一つと。

【小川専任者】

まだ出してないのもあるんでしょう。まだあるんでしょう。

【山崎専任者】

まあ、今のの、継続ですけれども。

【小川専任者】

継続です。継続じゃなきゃだめです。

【邑上会長】

ん、あ、いやいやいや。大体内容は、には触れられましたかね、大体。

【山崎専任者】

そうですね、飛び飛びになると、全部見切れないので。結局はね、当日配付されても、見切れないし、その……。

【邑上会長】

まあ、結局だから、予測量が、あ、だから予測量というか、その、ごみの、えーと、処理施設の、えーと、容量というかその、スペック、ん？ 容量でいいのかな、容量を決める、決めるために、えーと、組成分析をして、こう、行きましたという流れが、今のやり方ではまずいでしょう

と。だから、えーと、そこをやり直さないと、施設規模は、適切にできないですよっていう指摘ですよ。

【山崎専任者】

そうです。

【邑上会長】

なので、それをいっぱい細かくこう、質問して。

【山崎専任者】

あの、片山さんがよくね、あの、不燃・粗大、焼却施設の、上流である、うー、資源物処理施設、を固める、固めるって、何回もおっしゃるんですけども、結局、あの、資源物処理施設の、上流、要するに源流ですよ、これ、源流何かっていうと、処理量なんですよ。そうですよね。それが、こんな、1回の組成分析でね、数字が、2回目やったらその、1,000トンも変わっちゃうような組成分析で、進めちゃっていいのかっていう問題ですよ。だから源流を、固めなくちゃいけない、明確にしなくちゃいけないんですよ。

【邑上会長】

えー、どうでしょうか。山崎さんの指摘に対して、まあ、コメント、できますか。

【片山参事】

あの、ここで回答してる範囲内の回答になりますね。えー、既に、えー、今、あの、設定している17トン、6トンの設定根拠については、最も、当時、設定した当時ですね、確かな方法として選択したものですから、えー、今、変えることはちょっとできない。考えております。

【山崎専任者】

なんか無責任だね。

【邑上会長】

あの、はい。まあ、本来はですね、こういう、この、何ていうんですかね、根本の、その、数字、まあ今回数字でしたけど、そこの数字が、えー、適切かというか、問題ないのか、正しいのかっていうことを、追求する場では、本当は本来はないんでしょうけど、えー、そんな市民からね、こんな、細かい話をね、あの、突っ込まれるような話はおかしいかなと思うんですが、えー、なので本来は、衛生組合議会とかで、この内容をちゃんと精査して、そこに出てる派遣議員、3市の派遣議員が、この内容を精査して、あ、これはいいね、と言って進めるのが筋だと思うんですけど、えー、多分、衛生組合議会でこん、こういう詳細なこの数字について語られてないですよ。まあ、金額に対しても、何か出せとか言われているのをいろいろああだこうだやって。あの、議員によっては早く出せみたいな話で言われてると思うので、なので、その、まあ、まあ、



何回もね、光橋さんもそうだし、我々もみんな言ってるんですけど、あ、みんなじゃないですね、部分的に違うかもしれませんが、あの、あ、なるほどと。仕方ないね、という、言わせてほしいんですけどね。言わせてほしいんですけど、根本からして、これ、言えないよねっていう状況で、ずっと来てるのが、まあ、この会なんですね。はい。

で、えーと、もう、今日は……。

【山崎専任者】

すいません、もう1点だけ。

【邑上会長】

はい、あります？ はい。

【山崎専任者】

結局ね、あの、平成27年10月に片山さんが、その、ベースデータがあるからこれをお示しして説明しないと皆さんわかりませんよねって、ずっとやってなかったわけですよ。で、昨年の11月だか何かに、やっとベースデータ、まあその間、あの、ベースデータの、まあ、そういう、やったやつの、ベースデータだとか何とかって変なこと言ってましたけども、結局、それをやってれば、契約する前に、ある程度気がついて。いろいろな人がね。私はちょっと気になってたんで、たまたま、あの、一般廃棄物、小平市の、一般廃棄物処理基本計画を見ました。たら変な、その、ほんし、軟質プラは燃やしてるけど、実際は硬質プラも燃えてるっていうようなところを見つけて、それから追いかけていった。だから、それがちゃんとね、片山さんが、10月、平成27年10月の協議会で言った、ベースデータをお示しして皆さんに説明します、そうしないと皆さんわかりませんよ、まず、って言われたんです。それやってないからですよ。それやってれば、皆さんだって説明受け、いまだにないんですからね。説明されてないんですから。それをね、聞けば、少なくとも、その数値、細かい数値はわかんないかもわかんないけども、書いてある文章っていう、いうのはある程度理解できるじゃないですか。で、1つわかってくると、だんだん質問しやすくなるんですよ。それだと思いますよ。結局何にもしないで、今、今に至ってるわけですよ。1年半もかかって。それが一番の原因だと思いますよ。その間にどんどん進めちゃって、で結局、今になってみたら、17トンと6トンで進めてるから。実際にじゃあ、足らなかつたらどうするんですか。そういうことですよ。だからもう一回、まあ、この場で、立ちどまってもう一回、処理量に関しては、基本に戻って、ゼロベースでやったほうがいいです。でないと、とんでもないことになりますよ。可能性があるっていうことで。実際、2回目でそういう数値が出ちゃってるんだから。で、今の計画だと処理でき、し切れないんだから。それをね、8時間やればいいんだから。ような開き直るような発言されても困るんですよ。もともと

と5時間でやろうっていう説明をしているわけですから。何かトラブルがあったときは、8時間、というのはわかりますよ。でも初めから8時間でやればいいやっていう説明はないでしょう。

【小川専任者】

ほんとそうだ。

【山崎専任者】

ですから、最初から、処理量に関しては、ゼロベースでやってください。まあ2年かかっても3年かかってもいいじゃないですか。だって、ちゃんとした、根拠のある数字、処理量を出さないと、片山さんが何回も言ってる、上流が固定できないんですよ。ねえ。ということでいいんじゃないですかね、もう、今日の、協議会はね。

【坂本代表者】

山崎さんのおっしゃるとおりで、あの、本当に一回立ちどまってね。

【山崎専任者】

ね。やったほうがいいです。こんないいかげんならね。

【小川専任者】

イーストスクエアの小川ですけど、一番近い、ところに住んでるから、ちょっと、あの、今の、あの、片山さんがおっしゃったことには、すごく、憤りを感じます。まず、ね、そんなたくさんあったんだから、えん、あ、いやいや、残業してはち、ああ、8時間やると。いいかげんなこと、無責任なこと、言わないでくださいよ。

今、山崎さんがおっしゃってたけども、あの数字、よくわかります。こんないいかげんな、統計学をやる人はよくわかると思うんですけども、1回2回で、そんなのを決めるわけないし、2回目のが多くなったというならもっと多くなる可能性もあるんですよ。それを、さっき、答えて、この回答の範囲内ですと。こんないいかげんなデータを出して、つくるということは、すぐ、にさんじゅ、20メートルぐらいにしか離れてない、二、三十メートルしか離れてない、住んでいる私たちとしては、すごく、憤りを感じますよ。もう、もともと、必要でないものを、箱物をつくってるということに対して、何の説明もないし、コストの比較もないし。それで、出た言葉はいいかげんな言葉で、5時なんていうものが8時間になるし、夜とかもやるんじゃないとか。13億から25億、25億なるとか。一貫して、真摯な態度で、市民と、周辺住民と、会話して、つくっていく、そういう建物じゃないんですよ。今、話を聞いて、すごく憤りを感じました。ほかにもっと言いたいことはありますけれども、もう私、ちょっと、怒っています。

以上です。

【邑上会長】

はい、ありがとうございます。

あの、もう時刻が時刻なので、あの、今日は終わりにしたいと思います。なので、あの、まあ何もやってないというと、ね、それなりにやることはやってると思うんですけど、結局あの、まあ、前も言ってるんですけど、その、やっぱりちょっと、レビューですね、その、こう検討してきた内容を、いろいろな面を見て、これは合ってるかねとか、間違ってるかねということ、まあ通常、民間だとよくやると思うんですが、それを、そのときにその、この、げん、原単位というか、その、数字を決めたときに、その数字はどう決めたかっていうのをちゃんと検証してれば、そのときに、まあ、おかしければ直すし、よければそのまま進むというふうに、普通はなると思うんですが、まあ、そういうことを、まあ、別にこれだけじゃないですよ、廃プラの処理施設だけじゃないですけど、基本的にやらずに進んで、決まりましたって計画を説明して、で、進むっていうのが、まあ、行政のやり方だと思うので、えー、まあ、それだとうまくないよねっていう指摘になるのかなとは思いますが。

えーと、まあ、今日、これ以上、ここの話をしてもあれなので、時間がただ、かかるだけなので、今日は終わりにしたいと思います、えー……。

【山崎専任者】

だから、計画、もうこれ以上進めないわけでしょう。処理量のはっきりしないんだから。だから、計画停止の宣言してもらったほうがいいですよ。

【邑上会長】

まあ、山崎さんなり何なり、そういう意見、要望はあるのはわかりませんが、あの、まあ基本的に、この協議会は、あの、ここで何か決める場じゃないという話になっていますので、何があったとしても進めますと言っていましたから。まあ、ちょっと私がああ、進めていいですとかいう、し、言うわけではないんですが、進めますと言って進めています。

なので、この場ではとりあえずおかしいねっていうことがわかっ、わかっているというか、まあ、おかしって、最終的に本当におかしいかどうかはわかりませんよ。あの、決め方がおかしくて、あの、納得いく状態じゃないんだ、ないので、ちゃんと決めて、納得いく形にすれば、多分かなりの人が納得いくわけですよ。

で、そんな状況なのにもかかわらず、えー、今回、議会を通ってるからいいです、という形で進んじゃってるんですけど、その議会は大丈夫ですかという話もあるんですね。で、本当はそこが、ちゃんとチェック機構にならなきゃいけないんでしょうけど、まあ現状こうですと。だからまあ、何言ってもだめでしょうけど、一応気持ちとしては、ちゃんとやり直せよと。その数字

は、ちゃんとやり直して進めるべきでしょうっていうことは、まあ、意見としてはいいですね。っていうことで、まあ今日は、ここで、もう遅いので、終わりにしたいので。

はい。でですね、次回。次回の連絡協議会は、5月13の土曜日の18時半ですね。また場所はここの桜が丘市民センターとなっております。

あの、またこの話の続きも当然あると思いますし、あの、あの、例えば見学会の報告とかですね、その他の、今日使えなかった資料は、まあ基本的に持ってきてほしいということですので、まあ可能な限り、次回ですね、また資料を持ってきていただければと思います。

はい。じゃあ、またあの、今日もですね、大分遅くなってしまいましたけれども、本日のですね、連絡協議会は終わりにしたいと思います。皆さん、どうもお疲れさまでした。